

2017年3月期 第3四半期決算 投資家向け説明会

2017年2月10日
ソフトバンクグループ株式会社



免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

本資料中のスプリント・コーポレーション（以下「スプリント」）に関するいかなる記載も、当社がスプリントに対する投資家としての立場から行っているものに過ぎず、スプリントを代理して、又はスプリントのために行われたものではありません。本資料中のスプリントに関するいかなる情報も、スプリント自体が今後行うあらゆる開示に服します。スプリント及び当社はいずれも、スプリントが今後行う開示に関連して、又は今後発生する事象を反映するために、本資料中の情報を更新する義務を負いません。本資料におけるいかなる記載も、スプリントが自ら開示等を行う義務を構成するものとして解釈されてはならないものとします。

經理編

セグメント別の主な構成企業

<FY15>

報告セグメント	主な事業会社
国内通信事業	ソフトバンク Wireless City Planning
スプリント事業	スプリント
ヤフー事業	ヤフー アスクル (2015年8月子会社化)
流通事業	ブライトスター ソフトバンクコマース&サービス
その他	スーパーセル 福岡ソフトバンクホークス

<FY16>

報告セグメント	主な事業会社
国内通信事業	ソフトバンク Wireless City Planning
スプリント事業	スプリント
ヤフー事業	ヤフー アスクル
流通事業	ブライトスター ソフトバンクコマース&サービス
アーム事業 (Q2より新設)	アーム (業績は2016年9月6日から反映)
その他	福岡ソフトバンクホークス

非継続事業へ計上
FY15についても遡及修正

連結P/L総括 IFRSベース

PL項目	FY15 Q1-Q3	FY16 Q1-Q3	増減	主な増減要因
継続事業				
売上高	66,038	65,815	-223	+597 国内通信事業の増収（外部顧客への売上高） 通信サービス売上と物販等売上の増加
				-2,348 スプリント事業の減収（外部顧客への売上高） 主に為替変動による減少、米ドルベースは増収（IFRS：FY15：241億米ドル、FY16：248億米ドル）
				+1,837 ヤフー事業の増収（外部顧客への売上高） 2015年8月にアスクルを子会社化した影響
				-1,043 流通事業の減収（外部顧客への売上高） 為替変動の影響およびC&Sを除くプライスターの米ドルベースの減収
				+689 アーム子会社化に伴うアーム事業の新設（外部顧客への売上高）
営業利益	8,047	9,497	+1,450	+532 国内通信事業の増益
				+857 スプリント事業の増益 米ドルベースにおいても増益（IFRS：FY15：5億米ドル、FY16：14億米ドル）
				-431 ヤフー事業の減益 FY15はアスクル子会社化に伴う一時益（594）を計上
				+204 流通事業の増益
財務費用	-3,295	-3,434	-139	-224 SBG：支払利息の増加
持分法による投資損益	3,032	2,060	-972	-938 アリババに係る持分法投資利益の減少（p.6参照） 主にFY15はAlibaba Health Information Technology Limited子会社化に伴う一時益を計上
関連会社株式売却益	-	2,381	+2,381	+2,344 アリババ株式の一部をアリババ、シンガポール政府系ファンド2社およびアリババのパートナーグループへ売却
為替差損益	-288	342	+630	+463 SBG：主に海外子会社からの外貨建て借入金と外貨預金の決済および換算換えの影響
デリバティブ関連損益	33	-959	-992	-723 アリババ株式資金化に係るカラー取引のデリバティブ評価損失を計上（p.9参照）
その他営業外損益	952	-135	-1,087	+604 主にアリババによる第三者割当増資に伴う関連会社持分変動益の増加
				-425 売却目的保有資産に対する減損損失 ガンホー株式を公開買付価額で評価し連結簿価との差額を損失計上
				-1,477 主にインド投資の評価損計上によるFVTPL金融商品損益の悪化（FY15：1,084、FY16：-393） （p.11参照）
税引前利益	8,481	9,752	+1,271	
法人所得税	-3,861	-6,246	-2,385	-2,906 アリババ株式一部資金化による影響
継続事業からの純利益	4,620	3,506	-1,114	
非継続事業				
非継続事業からの純利益	491	5,533	+5,042	+5,251 スーパーセル株式の売却益（税引後）を計上
純利益（親会社所有者帰属分）	4,290	8,574	+4,284	

SBG：ソフトバンクグループ、C&S：ソフトバンクコマース&サービス

※期中平均為替レート（1米ドル）FY15/Q1:121.34円、FY15/Q2:121.91円、FY15/Q3:121.07円 FY16/Q1:109.07円、FY16/Q2:102.91円、FY16/Q3:108.72円

(参考) アリババの持分法による投資利益

	アリババ		ソフトバンクグループ°				
	US-GAAP	IFRS					(参考) 為替レート
	純利益	IFRSへの修正	純利益	持分比率	持分法 投資利益	(Mil CNY)	
FY15Q1	2,893 (1-3月)	(※1) 7,177	10,070	約33%	3,277	19.56円/CNY	641
FY15Q2	30,843 (4-6月)	(※2) -19,993	10,850	約32%	3,516	19.36円/CNY	681
	(※3) 18,602 (7月)	-	18,602	約32%	5,989	19.89円/CNY	1,191
FY15Q3	(※3) 4,152 (7-9月)	(※4) 4,428	8,580	約32%	2,763	18.86円/CNY	521
合計	56,490	-8,388	48,102	-	15,545	-	3,034
FY16Q1	5,365 (1-3月)	1,434	6,799	約33%	2,216	16.64円/CNY	369
FY16Q2	7,550 (4-6月)	(※5) 6,748	14,298	約33% (2016年6月末:30.70%)	4,663	15.40円/CNY	718
FY16Q3	7,623 (7-9月)	(※6) 13,193	20,816	約30%	6,345	15.91円/CNY	1,009
合計	20,538	21,375	41,913		13,224		2,096

※1 FVTPL金融資産の公正価値変動額 (+4,982 Mil CNY)

※2 主にAlibaba Pictures Group Ltdの再評価益戻し (-24,734 Mil CNY) 、およびFVTPL金融資産の公正価値変動額(+2,674 Mil CNY)

※3 2015年7月のAlibaba Health Information Technology Limitedの子会社化に伴う一時益は期ずれ取引として当社FY15Q2に計上

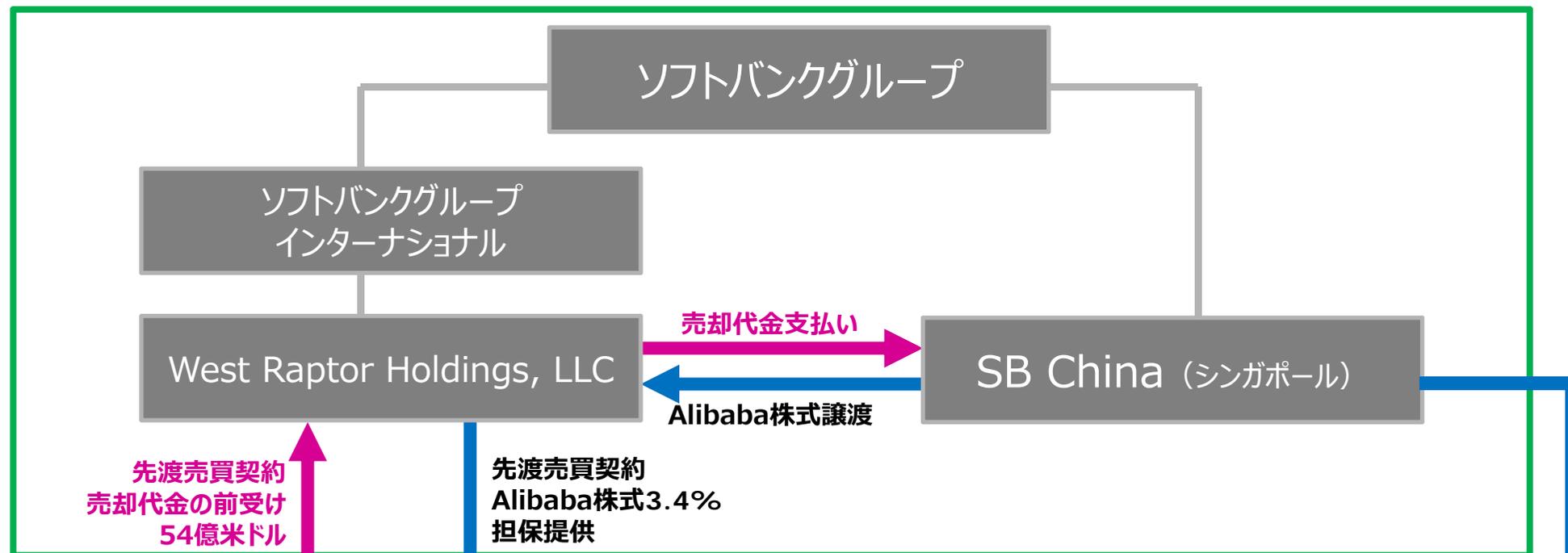
※4 FVTPL金融資産の公正価値変動額 (+3,360 Mil CNY)

※5 FVTPL金融資産の公正価値変動額 (+4,308 Mil CNY)

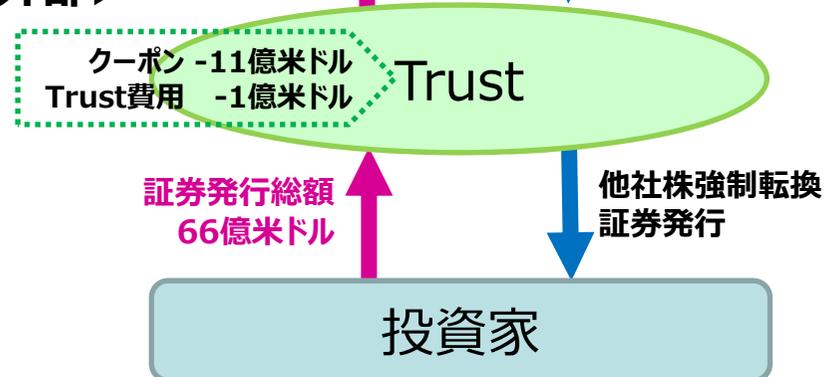
※6 FVTPL金融資産の公正価値変動額 (+12,174 Mil CNY)

(参考) アリババ株式一部売却と先渡し売買契約

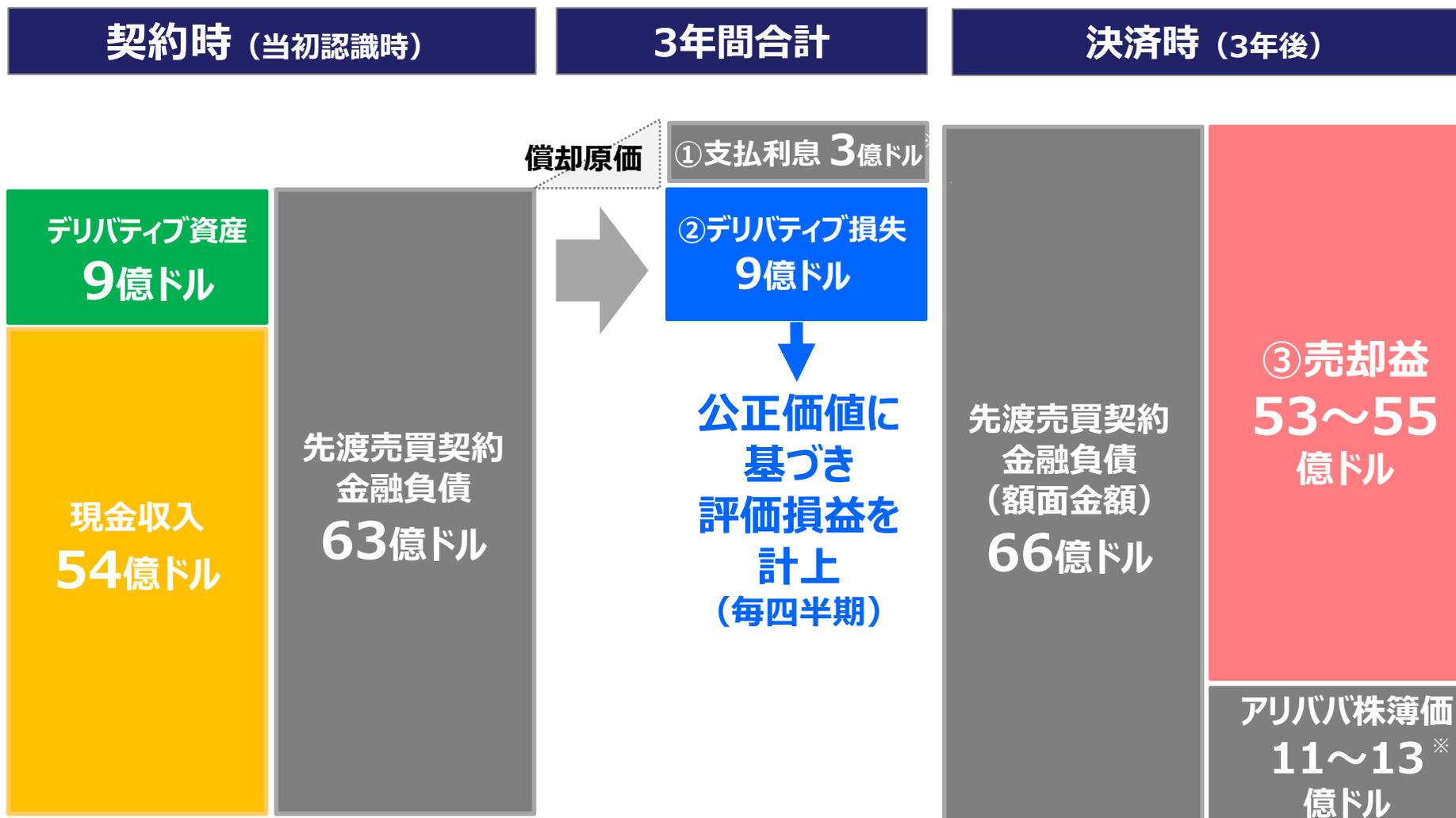
<連結>



<外部>



(参考) アリババ株式の先渡売買契約 (1)



※決済株式数はアリババ株式の3年後の株価によって73百万株~86百万株の間で変動。アリババ株式の簿価および売却益は2016年12月末時点の連結簿価で試算

(参考) アリババ株式の先渡し売買契約 (2)

契約時 3年間のデリバティブ損益 3年間合計

2016年6月1日
株価76.69ドル

Q1
株価79.53ドル

Q2
株価105.79ドル

Q3
株価87.81ドル

以降、決済までの
期間累計

期間中の
評価損益の計上
+
決済時の
デリバティブ
資産(負債)
取り崩し

評価益
12億ドル

デリバティブ資産
9億ドル

評価損
0.5億ドル

評価損
19億ドル

評価損
1.5億ドル

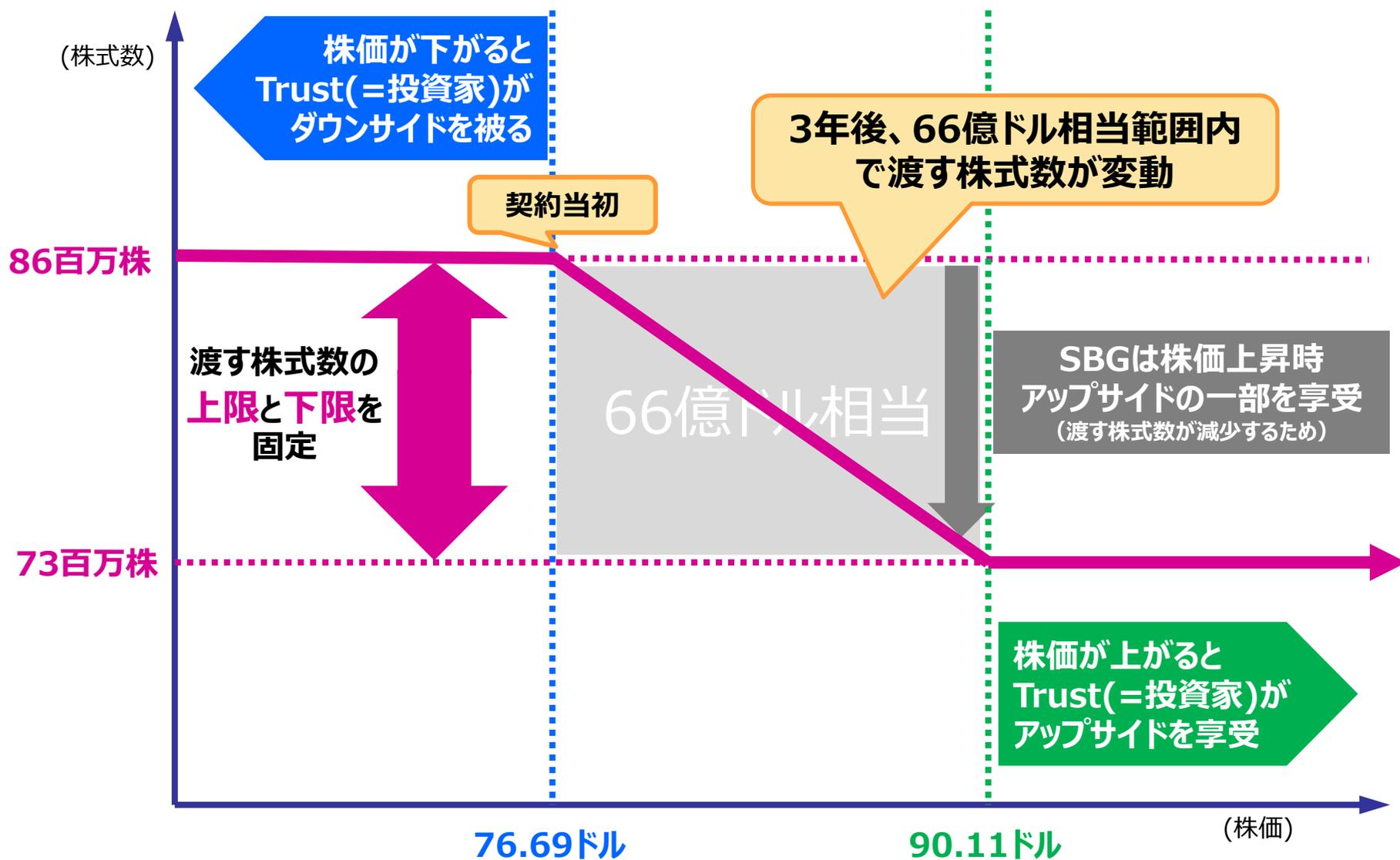
デリバティブ損失
9億ドル

Q3累計実績
評価損7.5億ドル

将来の計上額合計
評価損1.5億ドル

※金額は、税効果考慮前

(参考) 先渡売買契約に含まれるカラー取引



(参考) SBG・SBGCによる投資の公正価値の評価損益 (子会社・持分法以外)

(1) FVTPL (Fair Value Through Profit or Loss) の金融資産

毎四半期末に公正価値の変動額を「純損益」で認識

(億円)	FY16Q1	FY16Q2	FY16Q3	合計
FVTPLの金融商品から生じる損益	-305	-209	203	-311

為替変動による評価益
(主にインドルピー)
161億円を含む

主な銘柄：
Jasper Infotech (Snapdeal)、ANI Technologies (Ola)、
Grab (Grab Taxi)、Locon Solutions (Housing)

FVTPLの金融商品から生じる損益	-311 億円
税効果*	1 億円

純利益に与える影響額	-310 億円

※適用税率変更の影響を含む

(2) FVTOCI (Fair Value Through Other Comprehensive Income) の金融資産

毎四半期末に公正価値の変動額を「その他の包括利益」で認識

(億円)	FY16Q1	FY16Q2	FY16Q3	合計
その他の包括利益	192	-59	177	310

主な銘柄：
Xiaoju Kuaizhi (Didi Chuxing)、Forward Ventures
(Coupang)

その他の包括利益 (税引前)	310 億円
税効果	-68 億円

その他包括利益 (税引後)	242 億円

連結B/S総括 IFRSベース -1

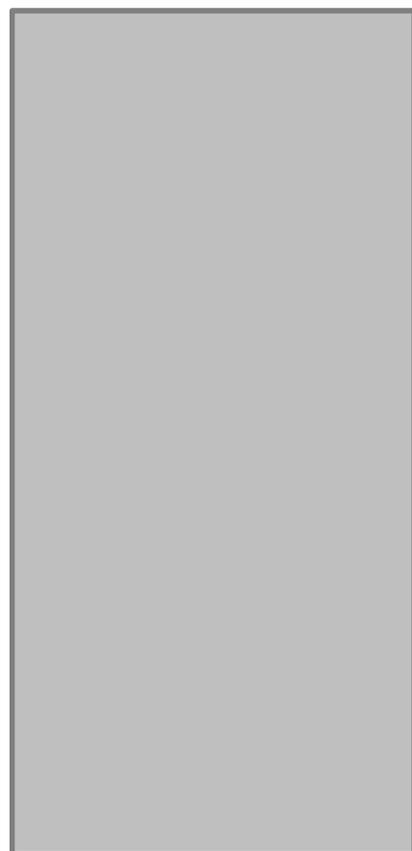
(億円)

BS項目	主な科目	2016/3月末	2016/12月末	増減	主な増減要因
流動資産		55,503	57,491	+1,988	
	現金及び現金同等物	25,696	24,987	-709	
	スプリント	2,976	4,318	+1,342	
	営業債権及びその他の債権	19,148	21,089	+1,941	スプリントの割賦売掛金（端末）の増加 アームの子会社化に伴い同社の債権を計上
	その他の金融資産	1,529	4,536	+3,007	スプリントの短期運用目的の商業ペーパーと定期預金の増加 アームの子会社化に伴い定期預金などの同社の金融資産を計上
その他の流動資産	5,536	2,767	-2,769	グループ会社間の配当に係る源泉所得税還付に伴う減少（-2,935）	
		151,569	191,179	+39,610	
非流動資産	有形固定資産	41,835	40,867	-968	
	スプリント	20,554	20,526	-28	
	のれん	16,098	48,590	+32,492	のれんの内訳は、p.14参照
	アーム	-	33,268	+33,268	Purchase Price Allocation（PPA）については、p.13参照
	スプリント	3,318	3,430	+112	
	無形資産	64,391	64,739	+348	無形資産の内訳は、p.15参照
	スプリント	54,687	55,811	+1,124	
その他の金融資産	9,709	16,144	+6,435	既存投資先への追加投資や投資有価証券の新規取得による増加	
繰延税金資産	1,729	3,510	+1,781		
資産合計		207,072	248,670	+41,598	

※為替レート：2016年3月末 112.68円/米ドル、2016年12月末 116.49円/米ドル、
2016年9月5日 138.15円/英ポンド、2016年12月末 143.00円/英ポンド

(参考) アーム買収に係るPPA

3.37兆円^{※1}
(244億ポンド)



取得対価

「のれん」

3.21兆円
(233億ポンド)



アーム純資産 (暫定)
(開始B/S)

1,552億円 (11億ポンド)

- PPAが完了していないため、テクノロジーIPなどの無形資産は現時点では計上されていない
- 取得対価と取得時の純資産との差額を暫定的にのれんとして計上
- PPAは、2016年度末までに完了予定^{※2}
- PPA完了次第、当該無形資産を計上 (償却資産は規則的な償却が行われるとともに、支配獲得時からの償却費は遡及して計上)

※1 株式報酬制度の清算および既存持分の公正価値を取得対価に含む

※2 支配獲得日から1年間は修正する場合があります

為替換算レート：2016年9月5日 1英ポンド = 138.15円

連結B/S総括 IFRSベース -2 (のれんの内訳)

(億円)

BS 項目	主な内訳	2016/ 3月末	2016/ 12月末	増減		摘要
				為替変動	その他	
		16,098	48,590	+1,183	+31,309	
の れ ん	(アーム	-	33,268	+1,129	+32,139) 2016年9月新規連結 暫定
	ソフトバンク	9,075	9,075	-	-	
	スプリント	3,318	3,430	+112	-	
	ブライトスター	883	913	+30	-	
	一休	720	720	-	-	
	アスクル	538	538	-	-	
	スーパーセル	933	-	-88	-845	

※上記は当社が支配獲得時に認識したのれんの金額。支配獲得後の当該子会社によるM&Aの結果認識したのれんは含まない。

※スプリント、ブライトスター（米ドル）：為替レート 2016年3月末 112.68円/米ドル、2016年12月末 116.49円/米ドル
 アーム（英ポンド）：為替レート 2016年9月5日 138.15円/英ポンド、2016年12月末 143.00円/英ポンド
 スーパーセル（ユーロ）：為替レート 2016年3月末 127.70円/ユーロ

連結B/S総括 IFRSベース -3 (無形資産の内訳)

(億円)

BS項目	主な科目	2016/3月末	2016/12月末	増減			摘要
				償却費	為替変動	その他	
主な無形資産	FCCライセンス (非償却)	40,608	42,543	-	+1,431	+504	
	スプリント	40,608	42,543	-	+1,431	+504	「その他」の増加は、主に他のキャリアとの周波数交換（非資金取引）に伴い取得したFCCライセンス
	顧客基盤	4,398	3,434	-997	+33	-	
	スプリント	3,243	2,445	-833	+35	-	月次級数法 ポストペイド：8年、プリペイド：4年で償却
	アスクル	385	357	-28	-	-	定額法 償却年数：11年（月割）
	ソフトバンク	374	274	-100	-	-	月次級数法 償却年数：移動（PHS除く）：8年、固定：6年、PHS：9年
	ブライトスター	173	152	-19	-2	-	月次級数法 償却年数：12-16年
	一休	158	149	-9	-	-	定額法 償却年数：10-14年（月割）
	商標権	7,066	7,292	-	+226	-	耐用年数を確定できる商標権を除く
	スプリント	6,688	6,914	-	+226	-	
	アスクル	201	201	-	-	-	
	一休	101	101	-	-	-	
	ブライトスター	76	76	-	-	-	
	ゲームタイトル	598	-	-69	-53	-476	
	スーパーセル	598	-	-69	-53	-476	定額法 償却年数：5年（月割） 2016年7月スーパーセルを売却

※スプリント、ブライトスター（米ドル）：為替レート 2016年3月末 112.68円/米ドル、2016年12月末 116.49円/米ドル
 スーパーセル（ユーロ）：為替レート 2016年3月末 127.70円/ユーロ

連結B/S総括 IFRSベース -4

(億円)

BS項目	主な科目	2016/3月末	2016/12月末	増減	主な増減要因
		51,658	60,033	+8,375	
流動負債	短期借入金	5,154	8,248	+3,094	SBG : 手元資金の拡充 (+2,794)
	スプリント	1,485	2,046	+561	
	1年内返済予定の長期借入金	7,432	11,862	+4,430	SBG : 返済および非流動負債から振替 (+1,205)
	スプリント	820	3,760	+2,940	リース携帯端末およびネットワーク機器等を活用した借入金の増加、非流動負債から振替
	1年内償還予定の社債	9,007	8,557	-450	SBG : 1年内償還予定の社債を非流動負債から振替 (+1,098)、社債の償還 (-1,000)
	スプリント	4,318	3,759	-559	社債の償還 (-2,501)、1年内償還予定の社債を非流動負債から振替 (+1,899)
営業債務及びその他の債務	16,212	16,892	+680		
スプリント	4,410	4,382	-28		
		120,361	148,820	+28,459	
非流動負債	長期借入金	17,855	29,867	+12,012	SBG : アーム買収資金に係るブリッジローン1兆円の借入などによる増加 (+7,705)
	スプリント	801	4,593	+3,792	主に周波数帯の一部やネットワーク機器、リース携帯端末を活用した借入金の増加
	社債	66,119	69,069	+2,950	SBG : 普通社債およびハイブリッド社債の発行などによる増加 (+4,114)
	スプリント	31,882	30,719	-1,163	流動負債への振替などによる減少、為替変動による増加
	株式先渡契約金融負債	-	7,399	+7,399	アリババ株式先渡売買契約に基づく金融負債 (詳細p.8参照)
繰延税金負債	20,832	27,256	+6,424		
スプリント	16,522	17,397	+875		
	負債合計	172,019	208,853	+36,834	

※為替レート : 2016年3月末 112.68円/米ドル、2016年12月末 116.49円/米ドル

連結B/S総括 IFRSベース -5

(億円)

BS項目	主な科目	2016/3月末	2016/12月末	増減	主な増減要因
		35,053	39,817	+4,764	
資本	資本金	2,388	2,388	-	
	資本剰余金	2,612	2,467	-145	
	利益剰余金	21,666	23,800	+2,134	親会社の所有者に帰属する純利益の計上 (+8,574)、自己株式1億株 (消却前の発行済株式総数に対する割合8.33%) の消却に伴う減額 (-5,952)
	自己株式	-3,148	-689	+2,459	期中に自己株式を取得後、1億株を消却
	その他包括利益累計額	2,617	3,000	+383	為替変動による在外子会社・関連会社の為替換算差額の増加 (+368)
	非支配持分	8,917	8,851	-66	
	親会社の所有者に帰属する持分比率 (自己資本比率)	12.6%	12.5%	-0.1p	

※スプリント (米ドル) : 為替レート 2016年3月末 112.68円/米ドル、2016年12月末 116.49円/米ドル
 アーム (英ポンド) : 為替レート 2016年9月5日 138.15円/英ポンド、2016年12月末 143.00円/英ポンド
 アリババ (CNY) : 為替レート 2016年3月末 17.39円/CNY、2016年12月末 16.76円/CNY
 スーパーセル (ユーロ) : 為替レート 2016年3月末 127.70円

スプリントの影響 – US-GAAP⇒IFRS調整 (1)

【PL項目の調整】 (2016年4月1日 – 2016年12月31日) (Mil USD)

スプリント	米国基準	表示の組替 (1)	認識・測定の違い						IFRS		ソフトバンクグループ
			ネットワーク再編費用の認識時点 (2)	資産除去債務の割引率 (3)	資産化した債権流動化費用 (4)	過年度減損固定資産の減価償却費 (5)	賦課金の債務認識時点 (6)	その他	Mil USD	億円	
Net operating revenues	24,808								24,808	26,520	売上高
Net operating expenses											
Cost of services and products	-11,222	-5,654			-5	-24	114	1	-16,790	-17,945	売上原価
Selling, general and administrative	-5,992	-360			25		10	-32	-6,349	-6,787	販売費及び一般管理費
Depreciation and amortization	-6,040	6,040									
Other, net	-260		-20					-24	-304	-336	その他の営業損益
Operating income	1,294	26	-20		20	-24	124	-55	1,365	1,452	営業利益
Interest expense	-1,864	27	-8	-22	-23			1	-1,889	-2,021	財務費用
Other expense, net	-67	-53						-2	-122	-129	その他の営業外損益
Loss before income taxes	-637		-28	-22	-3	-24	124	-56	-646	-698	税引前損失
Income tax expense	-286							4	-282	-299	法人所得税
Net loss	-923		-28	-22	-3	-24	124	-52	-928	-997	純損失
Operating income	1,294	26	-20		20	-24	124	-55	1,365	1,452	営業利益
Depreciation and amortization	6,040	-26				24			6,038	6,455	減価償却費及び償却費
EBITDA	7,334		-20		20		124	-55	7,403	7,907	EBITDA
Other adjustments	-80		20					22	-38	-30	その他の調整項目
Adjusted EBITDA	7,254				20		124	-33	7,365	7,877	調整後EBITDA

※日本円への換算は期中平均レート (Q1 : 109.07円/米ドル、Q2 : 102.91円/米ドル、Q3 : 108.72円/米ドル) を使用

- (1) 主に減価償却費・償却費を売上原価及び販売費への振替、うち26百万ドルは資産除去債務から生じる利息で米国基準では営業費用、IFRSでは財務費用として表示
- (2) ネットワーク再編 (iDEN, Clearwire等) 費用は、米国基準では支払の発生可能性が高くなった時点で認識、IFRSでは計画が公表された時点で認識 (IFRSでは支配獲得時に引当金として計上済み)
- (3) 米国基準では見積りキャッシュアウトフローが増加した場合にのみ資産除去債務の算定に用いる割引率を更新、IFRSでは期末日毎に割引率を更新
- (4) 債権流動化に係るエージェントフィーやアップフロントフィーを米国基準では費用処理、IFRSでは資産として繰延べて契約期間 (2年) で償却
- (5) スプリント (米国基準) ではReporting Unit (報告単位) をWireless・Wirelineに分けて、個別資産・資産グループごとに減損テストを実施し、2015年3月期に減損損失を認識したWirelineの有形固定資産にかかる減価償却費を不認識。当社 (IFRS) ではスプリント全体を1つのCGUとして資産全体で減損テストを実施し、減損損失を不認識のため減価償却費を継続して認識
- (6) 賦課金 (主に固定資産税) に係る負債/費用の認識時点が異なるため生じる差異であり、IFRSでは政府への支払義務が確定した時点で負債/費用を認識

スプリントの影響 – US-GAAP⇒IFRS調整 (2)

【BS項目の調整】 (2016年12月末時点)

(Mil USD)

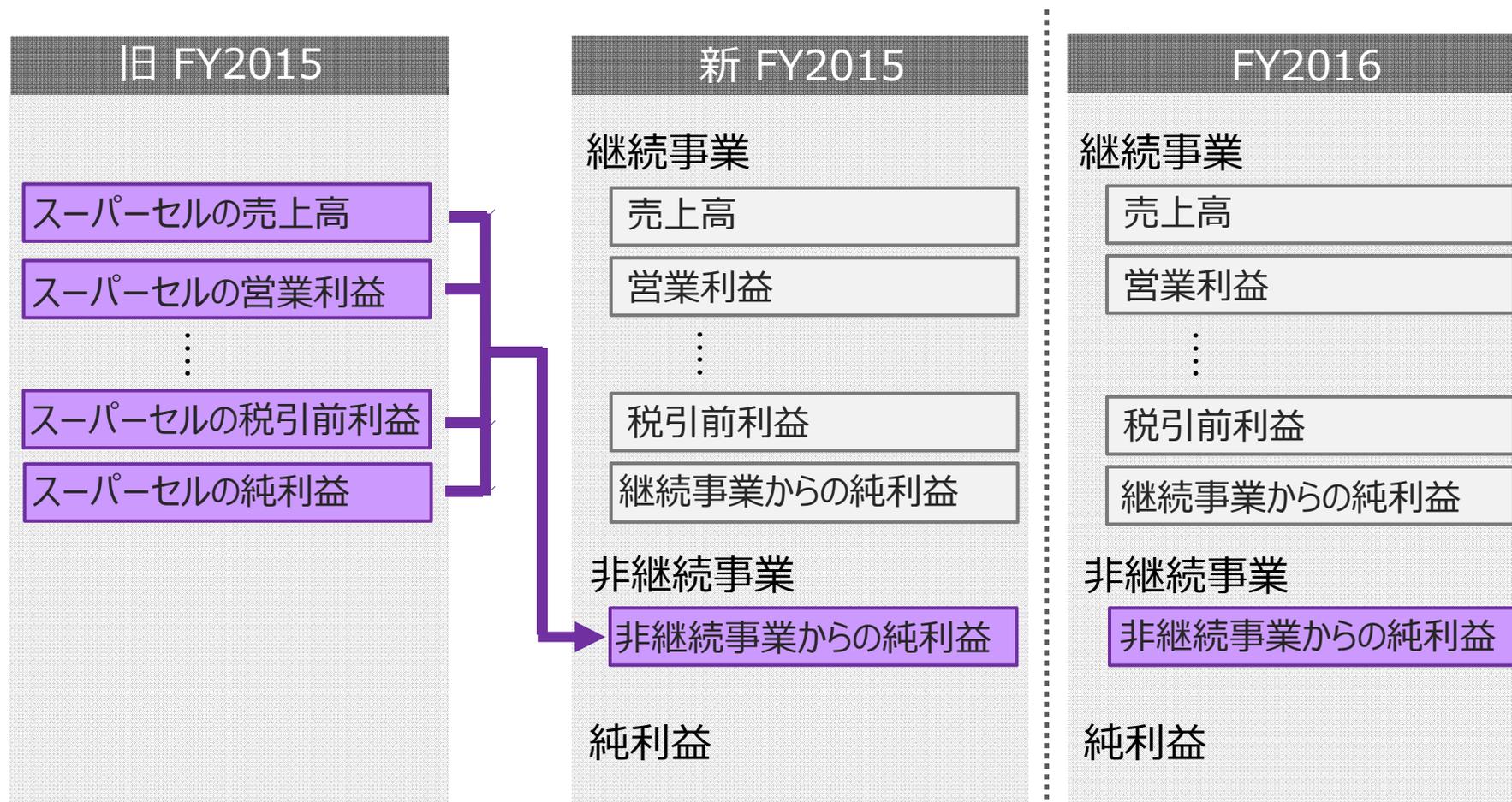
スプリント	米国基準	表示の組替(1)	認識・測定の違い							のれん調整(7)	IFRS		ソフトバンクグループ
			過年度減損固定資産(2)	債権流動化(3)	ネットワーク再編費用の認識時点(4)	資産除去債務の割引率(5)	賦課金の債務認識時点(6)	調整に関する税効果	その他		Mil USD	億円	
Assets													資産
Current assets	10,572			1,231							11,803	13,749	流動資産
Goodwill	6,579				340			77		-4,048	2,948	3,434	のれん
Other non-current assets	64,144		2,070	549			-11				66,752	77,759	その他非流動資産
Total assets	81,295		2,070	1,780	340		-11	77		-4,048	81,503	94,942	資産合計
Liabilities and shareholders' equity													負債及び資本
Current liabilities	13,637	80		1,780	33						15,530	18,091	流動負債
Non-current liabilities	48,662	-80			34		-41		699	26	49,300	57,429	非流動負債
Total liabilities	62,299			1,780	67		-41	699	26		64,830	75,520	負債合計
Shareholders' equity	18,996		2,070		273		30	77	-699	-26	16,673	19,422	資本
Total liabilities and shareholders' equity	81,295		2,070	1,780	340		-11	77		-4,048	81,503	94,942	負債及び資本合計

※日本円への換算は12月末レート（116.49円/米ドル）を使用

- (1) 米国基準では非流動負債に計上されている不確実な税務ポジションに係る引当をIFRSでは流動負債として表示
- (2) スプリント（米国基準）ではReporting Unit（報告単位）をWireless・Wirelineに分けて、個別資産・資産グループごとに減損テストを実施し、2015年3月期に商標権（スプリントブランド）およびWirelineの有形固定資産で減損損失を認識。当社（IFRS）ではスプリント全体を1つのCGUとして資産全体で減損テストを実施し、減損損失を不認識
- (3) 流動化した債権を米国基準では売却処理、IFRSではオンバランスの借入処理とし、売掛金と短期借入金を認識
- (4) ネットワーク再編（iDEN, Clearwire等）費用は、米国基準では支払の発生可能性が高くなった時点で認識、IFRSでは計画が公表された時点で認識（IFRSでは支配獲得時に引当金として計上済み）
- (5) 米国基準では見積りキャッシュアウトフローが増加した場合にのみ資産除去債務の算定に用いる割引率を更新、IFRSでは期末日毎に割引率を更新
- (6) 賦課金（主に固定資産税）に係る負債/費用の認識時点が異なるため生じる差異であり、IFRSでは政府への支払義務が確定した時点で負債/費用を認識
- (7) のれん調整は、
 - ①スプリント買収に関連し、締結した為替予約のうち170億米ドルについてヘッジ会計を適用し、支配獲得日の為替予約の公正価値（3,081百万米ドル）を控除したことに伴う外貨のれん金額の修正（ベースアジャストメント）
 - ②非支配持分に係る外貨のれん金額の消去

(参考) スーパーセル株式売却に伴う変更

スーパーセルの業績を通常の「継続事業」とは別に表示



財務編

2016年度 主な財務活動

カテゴリ	イベント	金額	時期
社債	第49回無担保普通社債(7年債) 発行	200億円	2016年4月
	第50回無担保普通社債(10年債) 発行	300億円	
	ハイブリッド債 発行		2016年9月
	第1回債(最終満期25年NC5)	556億円	
第2回債(最終満期27年NC7)	154億円		
	第3回債(最終満期25年NC5)	4,000億円	
投資回収	Alibaba株式の一部資金化	合計88億米ドル (約0.9兆円)	2016年 6月~7月
	- 株式先渡契約にもとづく売却代金の前受け	54億米ドル (約5,700億円)	
	- 売却	34億米ドル (約3,600億円)	
	Supercell株式の売却契約締結*1	73億米ドル (約7,700億円)	2016年6月
	ガンホーによる自己株公開買付に伴う 保有株式の売却	722億円	2016年8月
ARM 買収	ARM Holdings Plc. (ARM) 100%買収に係る合 意発表	240億ポンド (約3.3兆円)	2016年7月
	ARM買収に係るブリッジローン組成	1兆円	
		ARM買収完了	
その他	ソフトバンク・ビジョン・ファンド設立を決定		2016年10月
	OneWeb Ltd.への出資について合意	10億米ドル (約1,180億円)	2016年12月

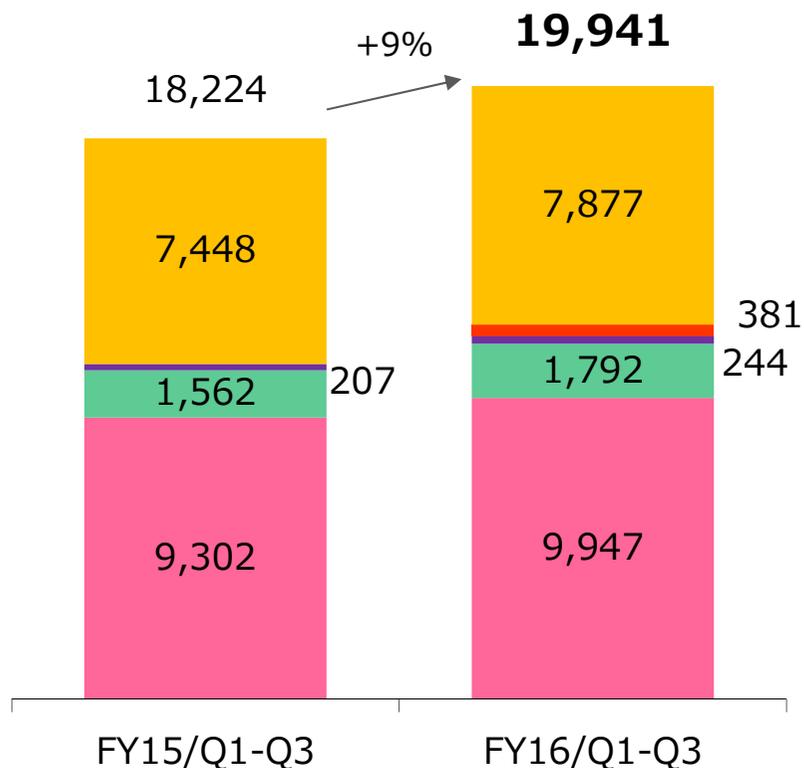
(※1) Supercell売却代金のうち、35億米ドルは2016年7月に、37億米ドルは2016年10月に受領済み。残額は2019年8月に受領予定。

調整後EBITDA・調整後EBITDAマージン①

堅調な国内通信事業およびスプリント事業の利益率改善がEBITDA増加に貢献

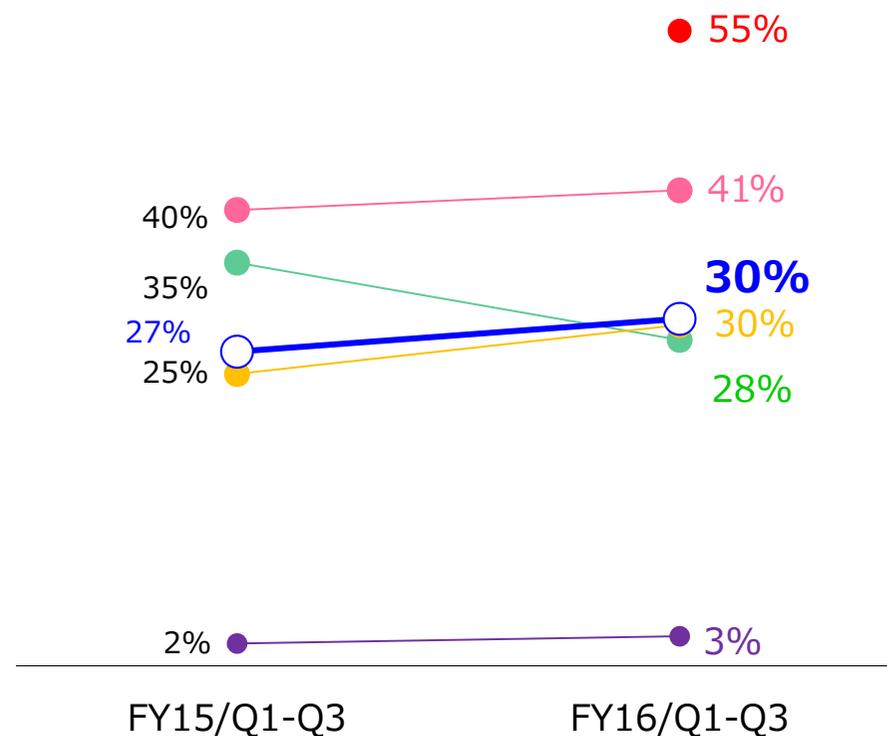
調整後EBITDA

(億円) ■ 国内通信 ■ ヤフー ■ 流通 ■ アーム ■ スプリント



調整後EBITDAマージン

● 国内通信事業 ● ヤフー事業 ● スプリント事業
● 流通事業 ● アーム事業 ● 連結



(※1) 従来EBITDAとして開示してきた金額を調整後EBITDAとして開示

(※2) 各セグメントの調整後EBITDA=各セグメントの(セグメント利益+減価償却費及び償却費±企業結合に伴う再測定による利益±その他の営業損益)

(※3) 調整後EBITDAマージン=調整後EBITDA÷売上高

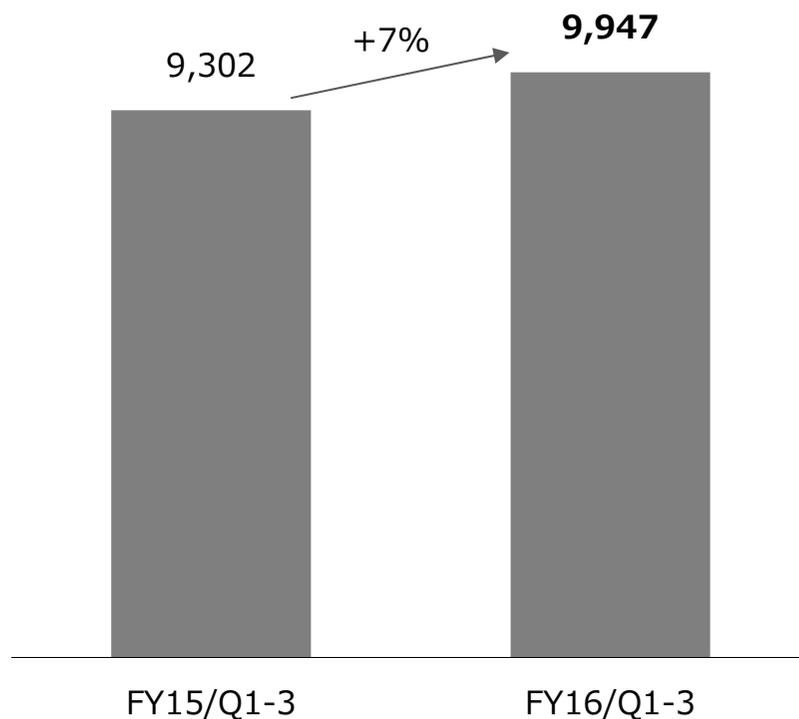
(※4) アーム事業は2016年9月6日から反映

調整後EBITDA・調整後EBITDAマージン②

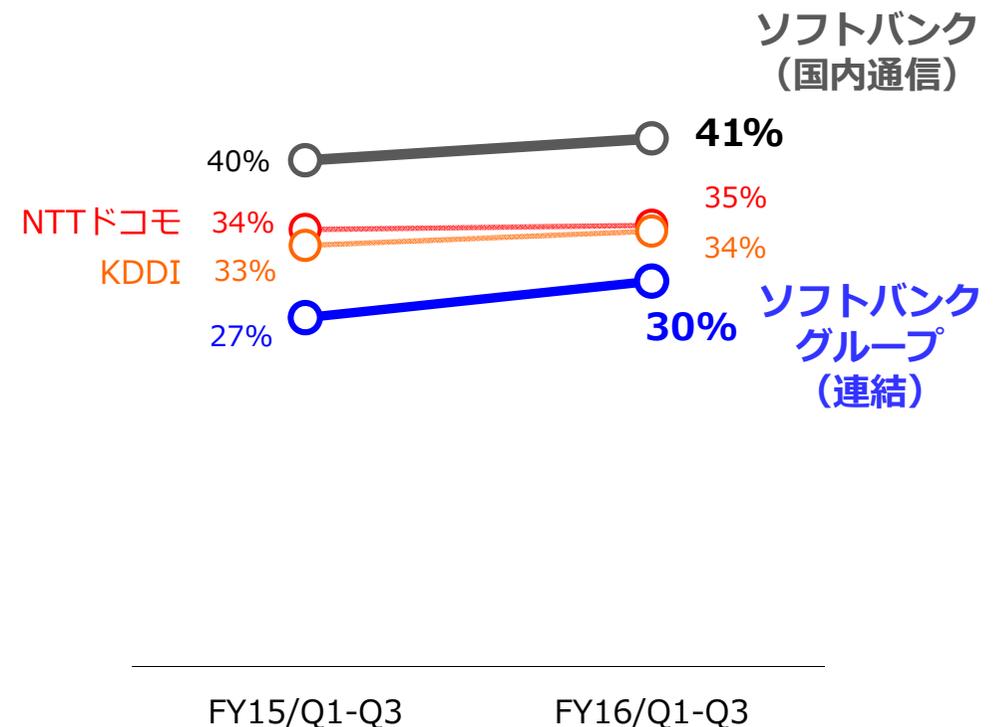
国内通信事業は高水準の利益率を維持

調整後EBITDA（国内通信事業）

(億円)



調整後EBITDAマージン



(※1) 従来EBITDAとして開示してきた金額を調整後EBITDAとして開示

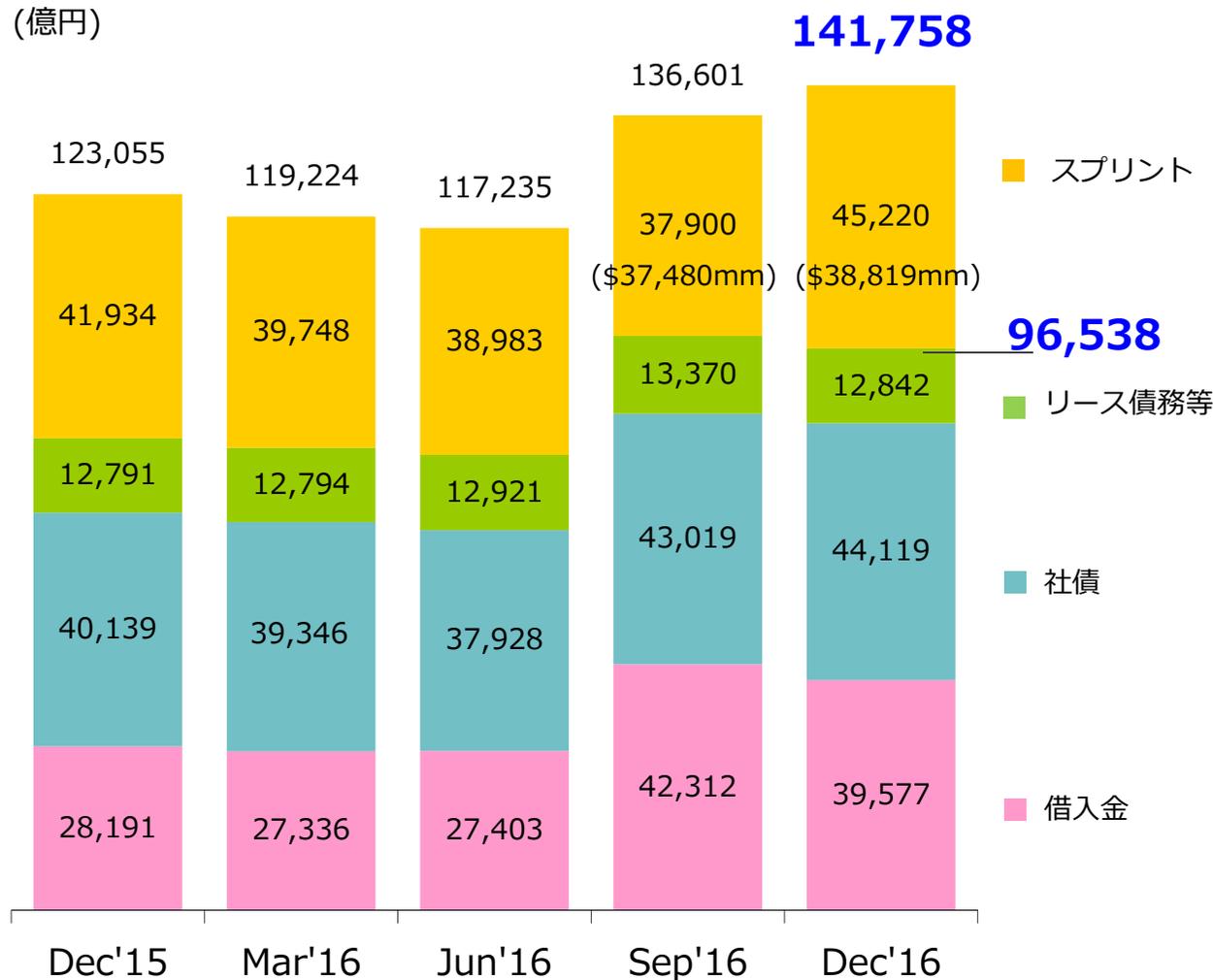
(※2) 各セグメントの調整後EBITDA=各セグメントの(セグメント利益+減価償却費及び償却費±企業結合に伴う再測定による利益±その他の営業損益)

(※3) 調整後EBITDAマージン=調整後EBITDA÷売上高

(出所) 各社開示資料: ドコモは米国基準、KDDIはIFRSに準拠。

有利子負債

ARM買収により有利子負債は増加 9月末比 約5,000億円増加（主に円安の影響）



スプリント有利子負債内訳	(億円)
借入金	10,399
社債	34,477
リース債務等	343
合計	45,219

社債内訳	(億円)
国内社債	22,457
国内劣後社債	13,011
(内、ハイブリッド債)	(4,627)
外債 (SBG)	8,651
合計	44,119

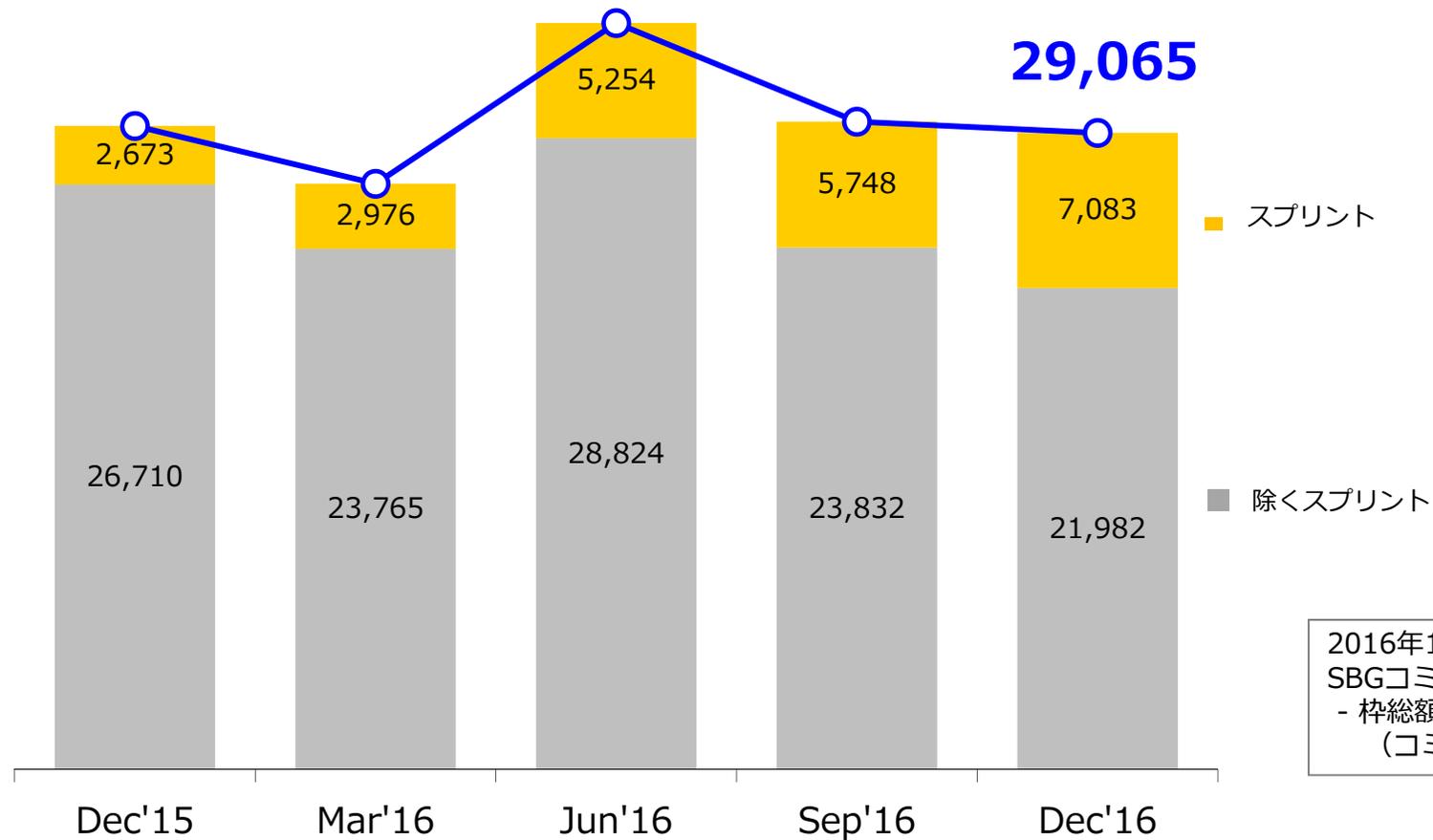
借入金内訳	(億円)
Sprint買収ローン	16,681
ARMブリッジローン	9,883
その他SBG借入	6,269
債権流動化	5,321
その他	1,424
合計	39,578

(※) Alibaba株式に係る株式先渡契約金融負債は有利子負債から控除

手元流動性

ARM買収完了後も潤沢な手元資金を確保

(億円)

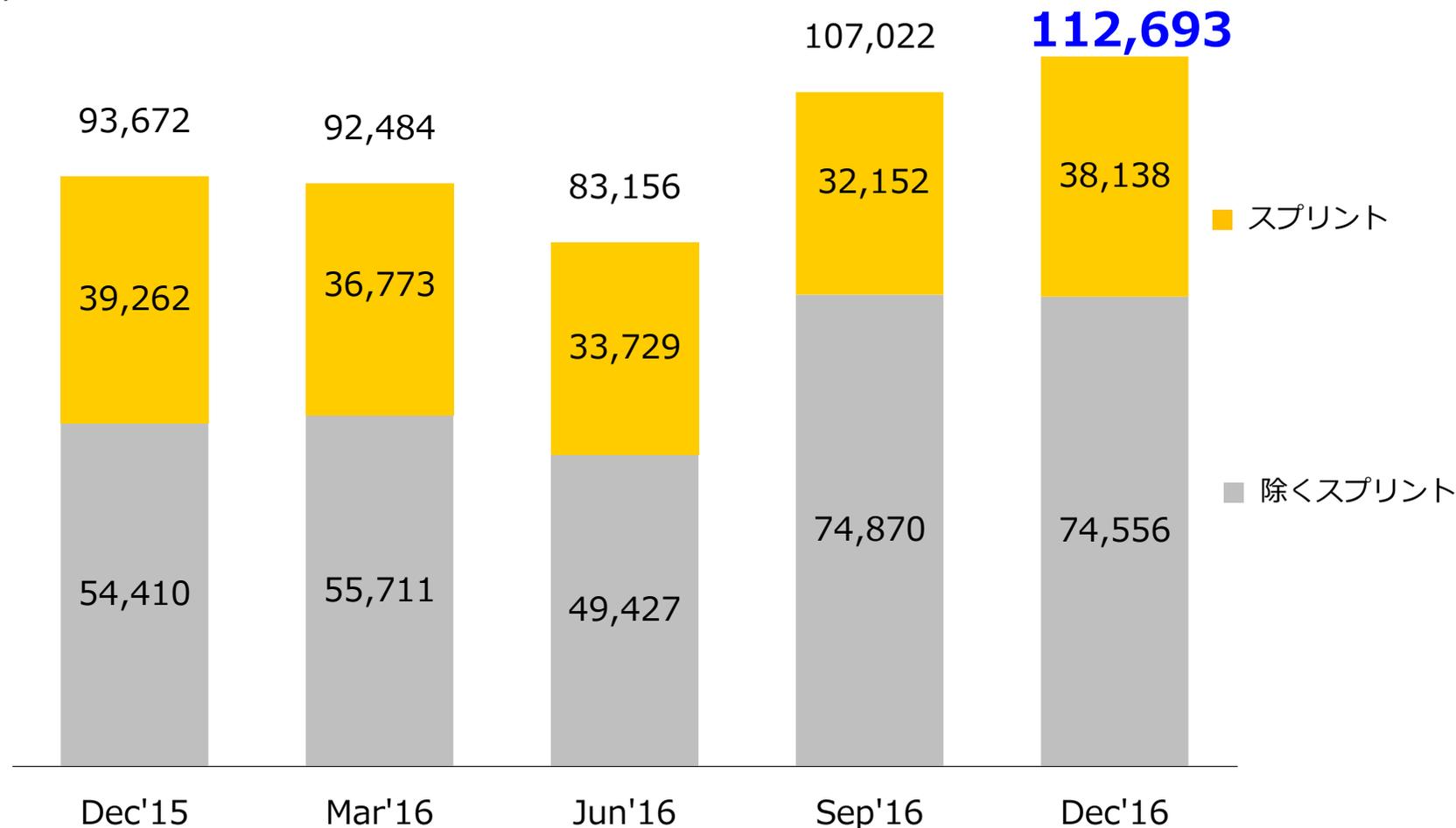


(※) 手元流動性 = 現金及び現金同等物 + 流動資産に含まれる短期投資

純有利子負債

9月末から約5,700億円増加（主に円安の影響）

(億円)



(※1) 純有利子負債 = 有利子負債 - 手元流動性

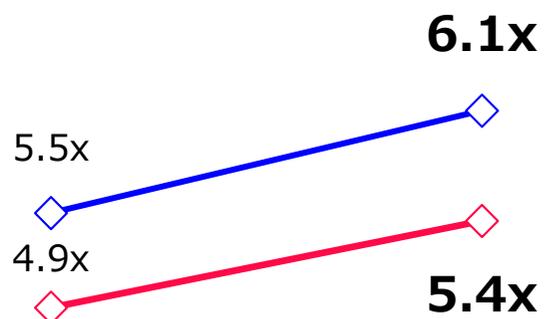
(※2) Alibaba株式に係る株式先渡契約金融負債は有利子負債から控除

レバレッジ・レシオ

ARM買収により悪化するも、Alibaba株式資金化やハイブリッド債発行により影響は緩和

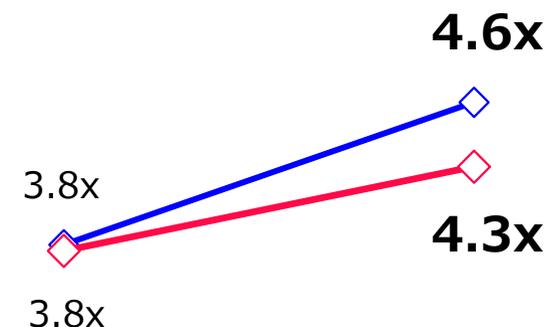
グロスレバレッジ・レシオ

◇ 除くスプリント ◇ 連結



ネットレバレッジ・レシオ

◇ 除くスプリント ◇ 連結



Mar'16

Dec'16

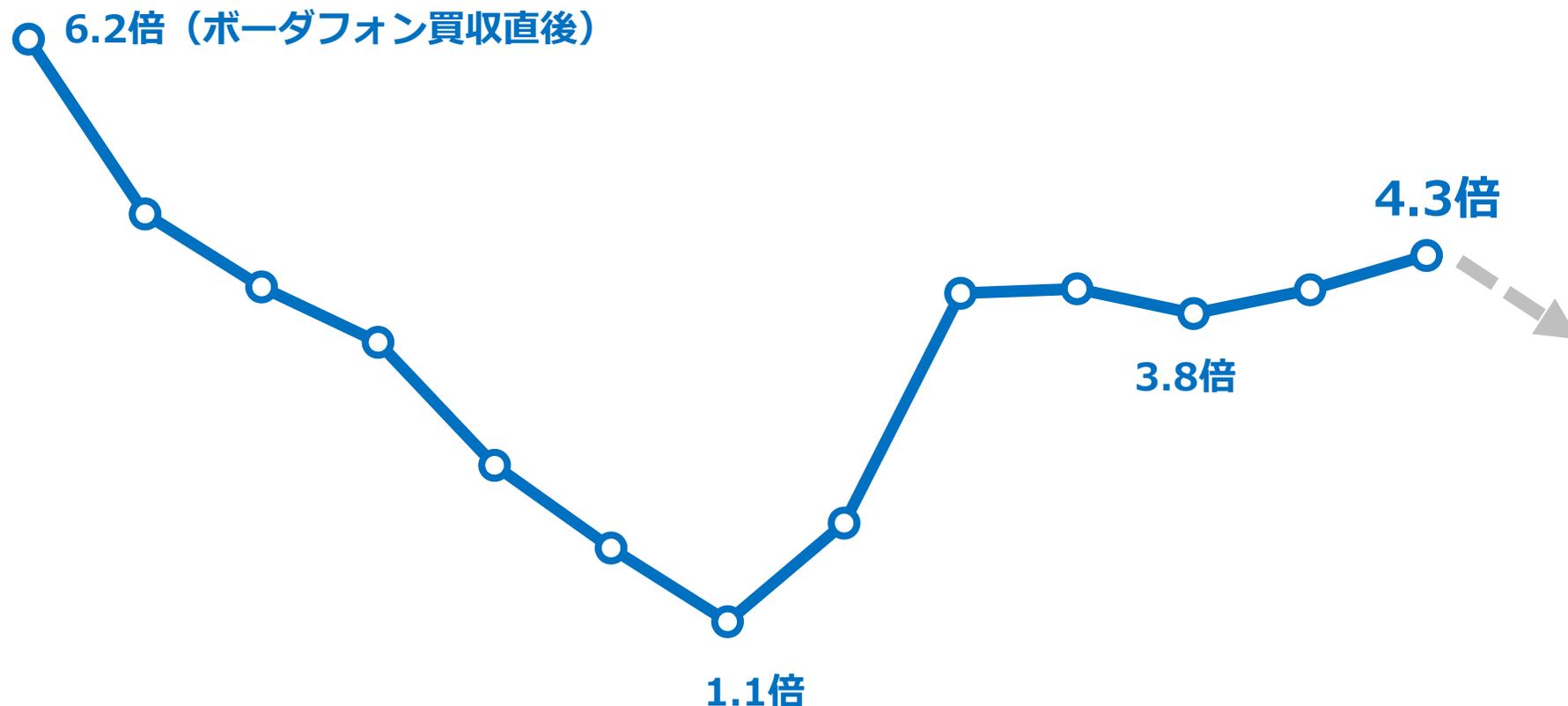
Mar'16

Dec'16

- (※1) グロスレバレッジ・レシオ=有利子負債÷調整後EBITDA
- (※2) ネットレバレッジ・レシオ=純有利子負債÷調整後EBITDA
- (※3) 調整後EBITDAは連結・除くスプリントともにLTMで算出
- (※4) Alibaba株式に係る株式先渡契約金融負債は有利子負債から控除。ハイブリッド債で調達した金額の50%を資本とみなして算出。
- (※5) Supercell売却による収入考慮後

ネットレバレッジ（連結）

純有利負債の削減に継続的に注力



Jun'06 Mar'07 Mar'08 Mar'09 Mar'10 Mar'11 Mar'12 Mar'13 Mar'14 Mar'15 Mar'16 Sep'16 Dec'16

(※1) ネットレバレッジ・レシオ=純有利子負債÷調整後EBITDA

(※2) 2011年度まで：日本基準、ファイナンス・リースおよび優先出資証券含む

(※3) 2014年度の調整後EBITDAは、ガンホーの持分法適用関連会社への異動に伴う遡及修正をした数値。2015年の調整後EBITDAにはSupercellを含む

(※4) アームの調整後EBITDAは年換算

(※5) Supercell売却による収入考慮後

(※6) 株式先渡契約金融負債を有利子負債から除いて算出。ハイブリッド債で調達した金額の50%を資本とみなして算出。

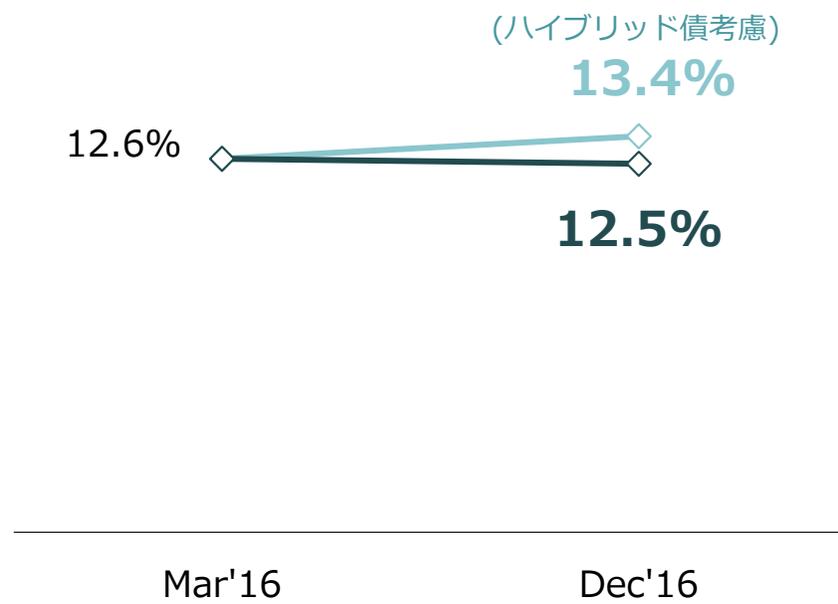
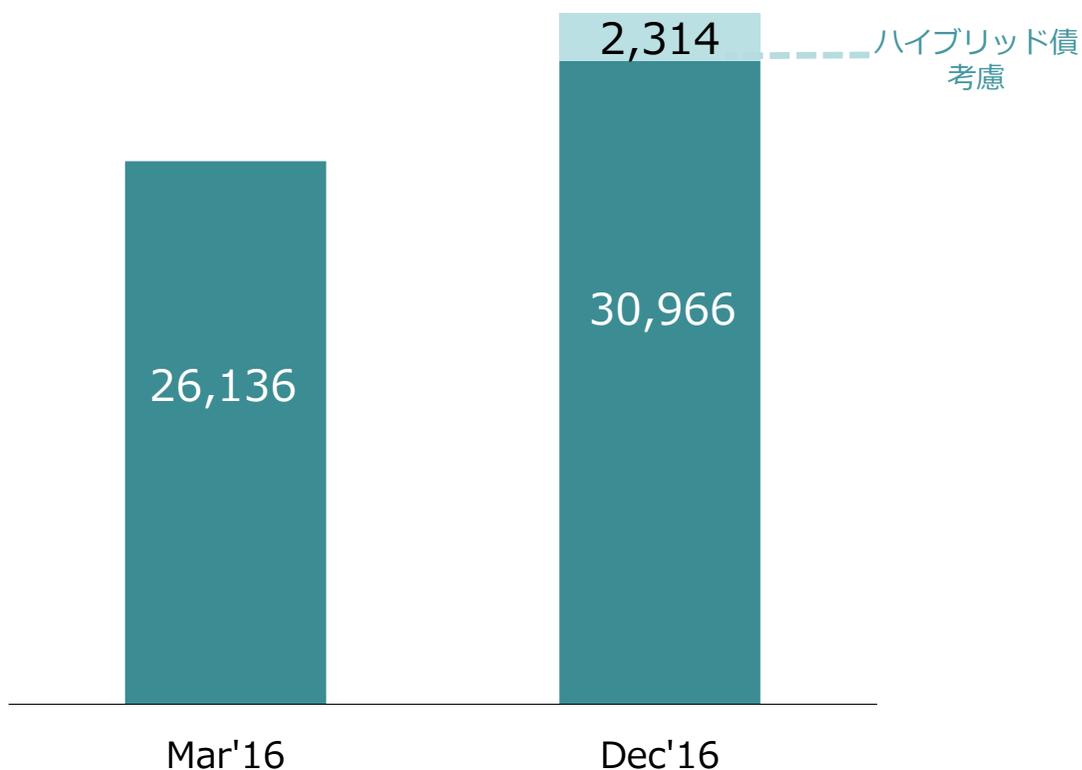
自己資本比率

利益の積み上げにより自己資本は増加（純利益 約8,600億円）

自己資本

自己資本比率

(億円)



(※) 自己資本=親会社の所有者に帰属する持分(ハイブリッド債発行による調整を含む)

デット・エクイティ・レシオ



Mar'16

Dec'16

ネットデット・エクイティ・レシオ



Mar'16

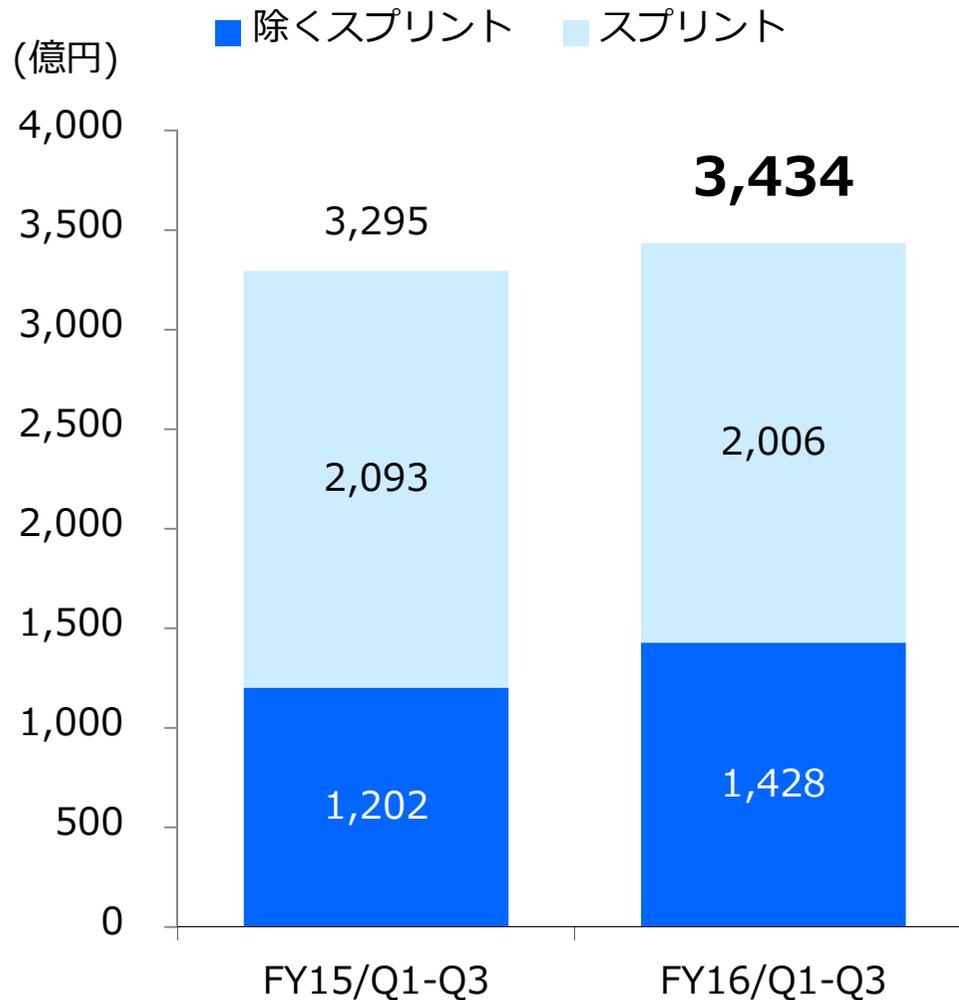
Dec'16

- (※1) デット・エクイティ・レシオ=有利子負債÷親会社の所有者に帰属する持分(ハイブリッド債発行による調整を含む)
- (※2) ネット・デット・エクイティ・レシオ=純有利子負債÷親会社の所有者に帰属する持分(ハイブリッド債発行による調整を含む)
- (※3) Alibaba株式に係る株式先渡契約金融負債は有利子負債から控除
- (※4) Supercell売却による収入考慮後

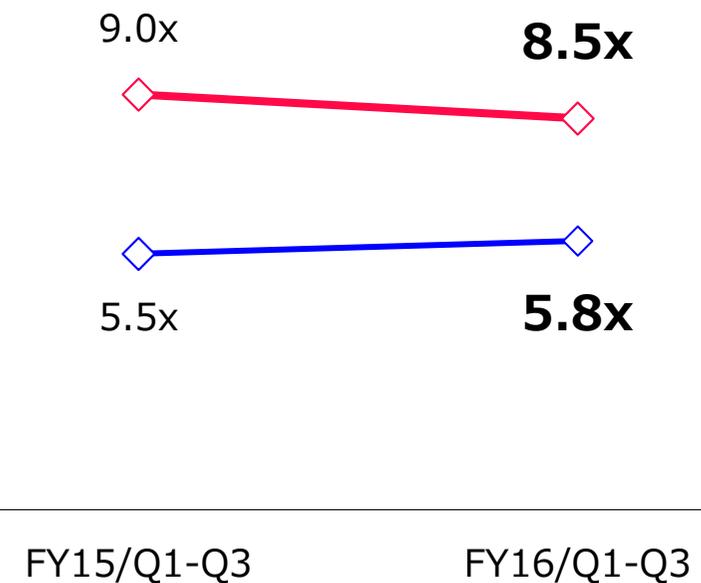
支払利息

支払利息（財務費用）

インタレスト・カバレッジ・レシオ



◆ 除くスプリント ◆ 連結

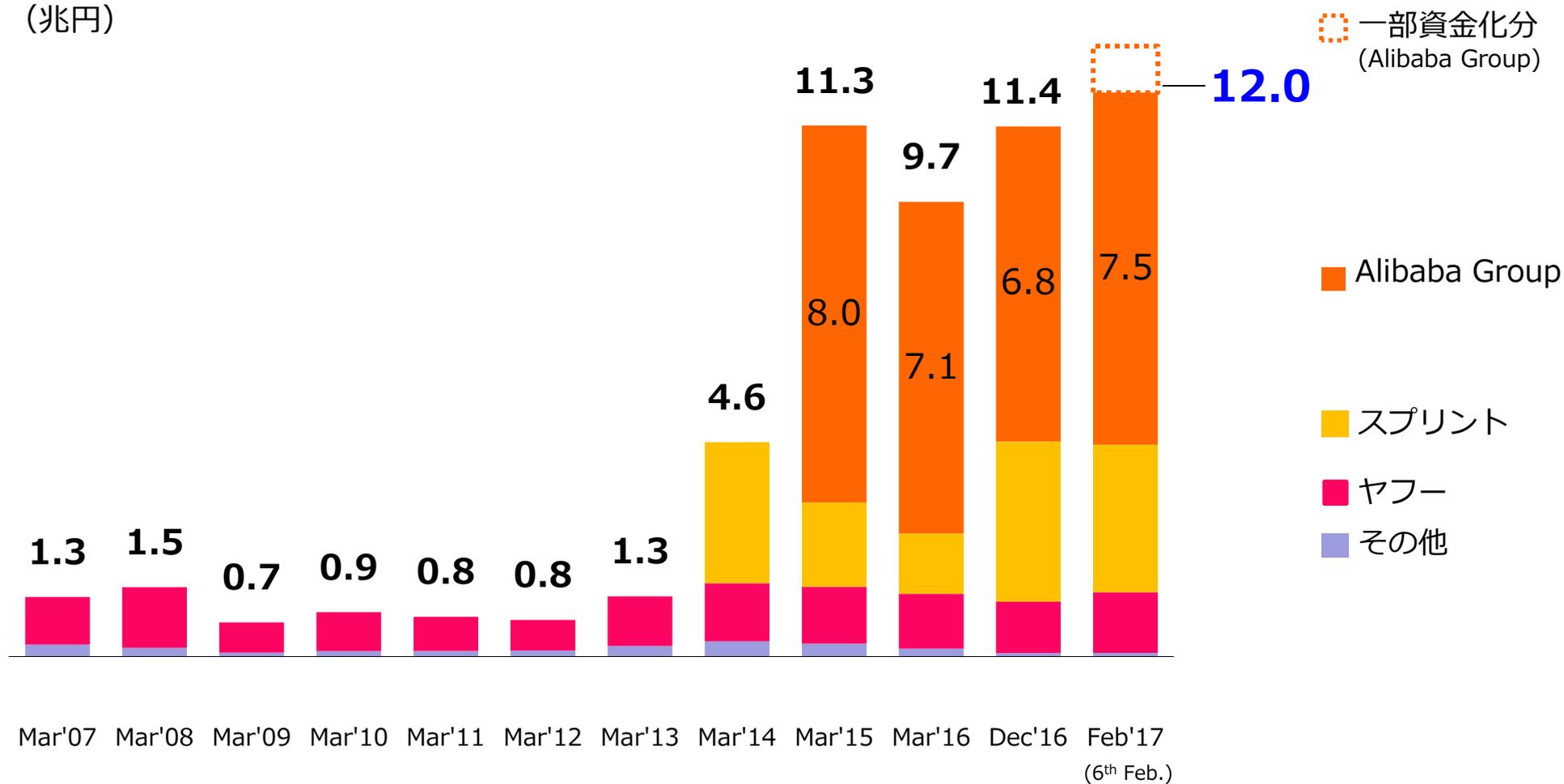


(※1) インタレスト・カバレッジ・レシオ = 調整後EBITDA ÷ 支払利息（財務費用）

保有上場株式時価総額（当社および当社完全子会社保有分）

Alibaba株式の一部資金化後も約12兆円の上場株式を保有

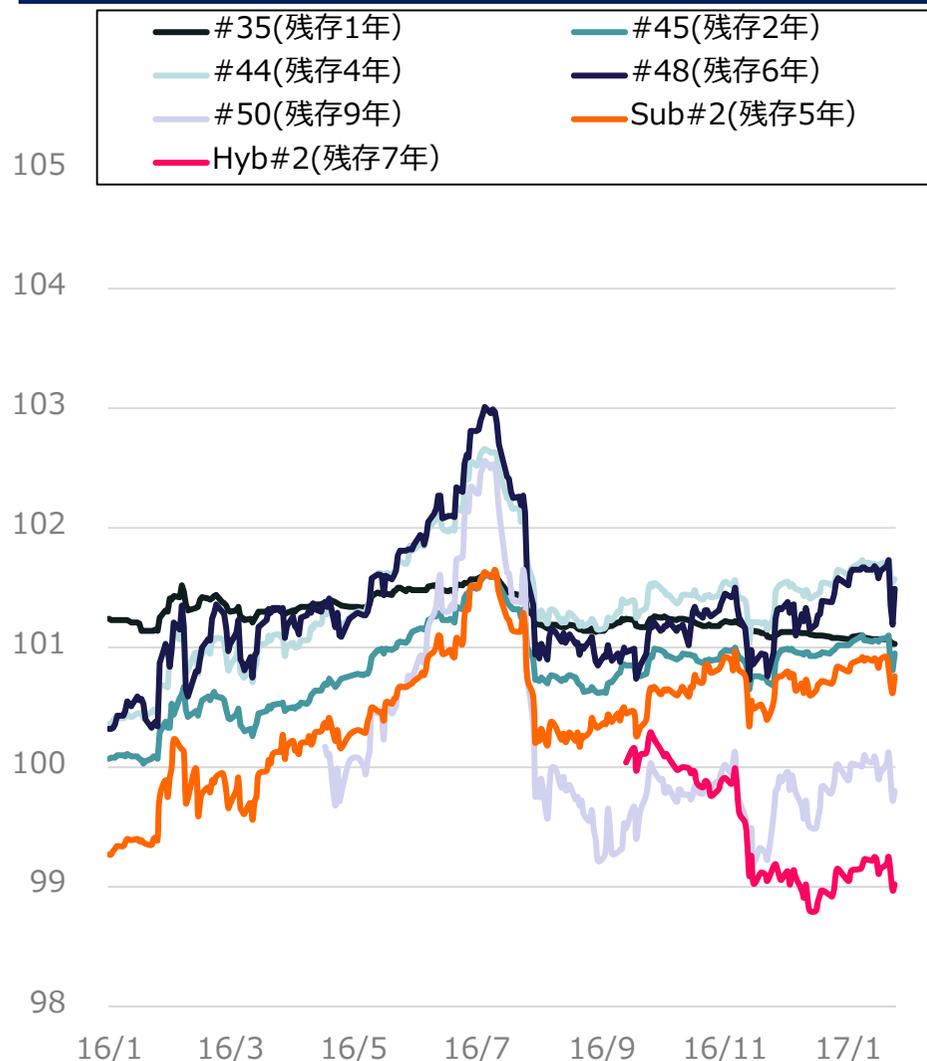
(兆円)



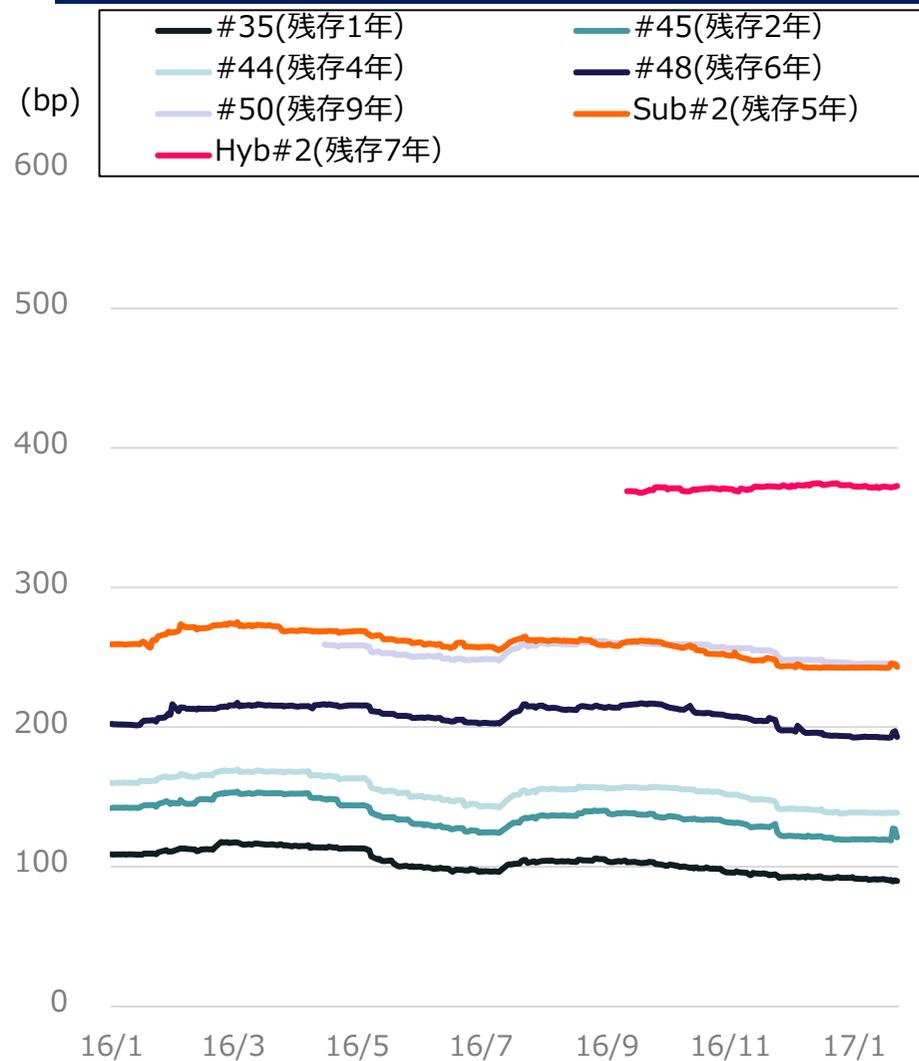
(※1) 各期末日時点終値にて当社算出

SBG 国内社債価格・スプレッド

国内債価格



国内債スプレッド



(※) Quickより当社作成
ハイブリッド債残存年数は初回コールまでの年数

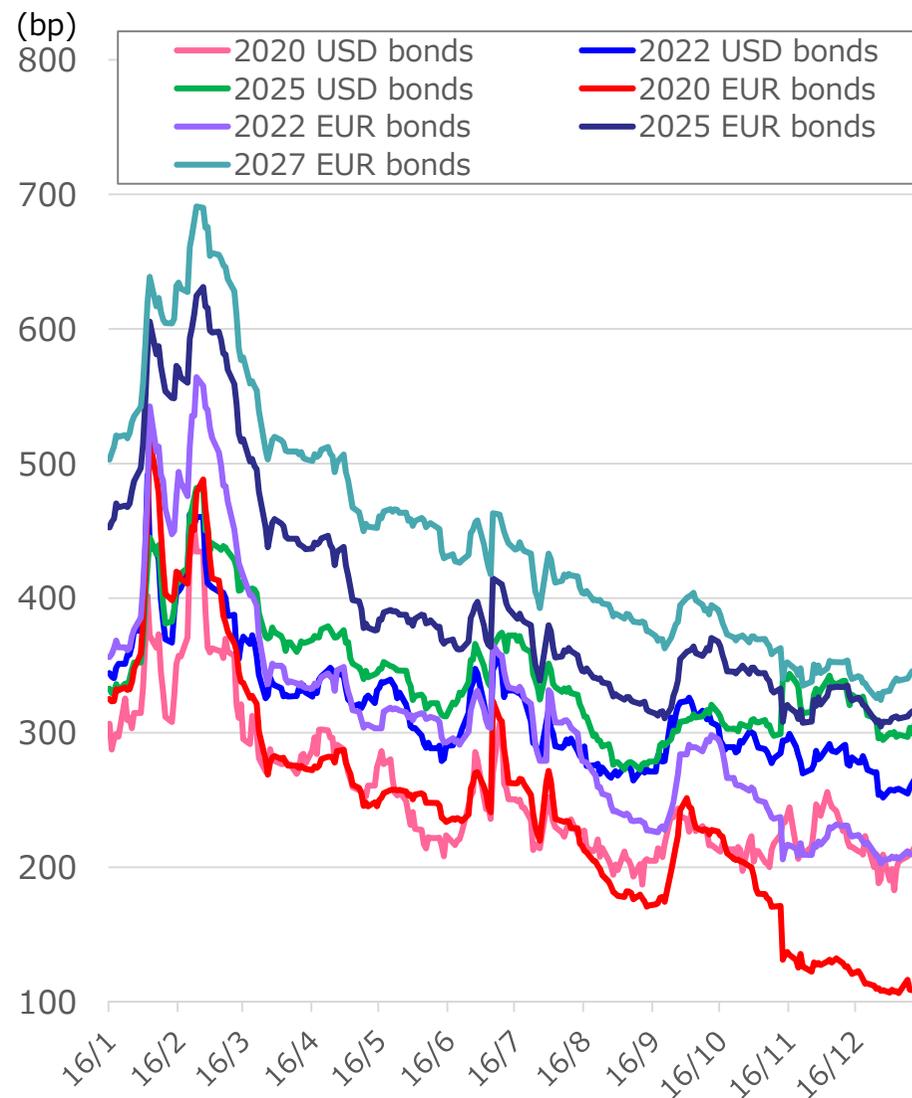
SBG 外債建普通価格・スプレッド

SBG 外債価格



(※) Bloomberg より当社作成

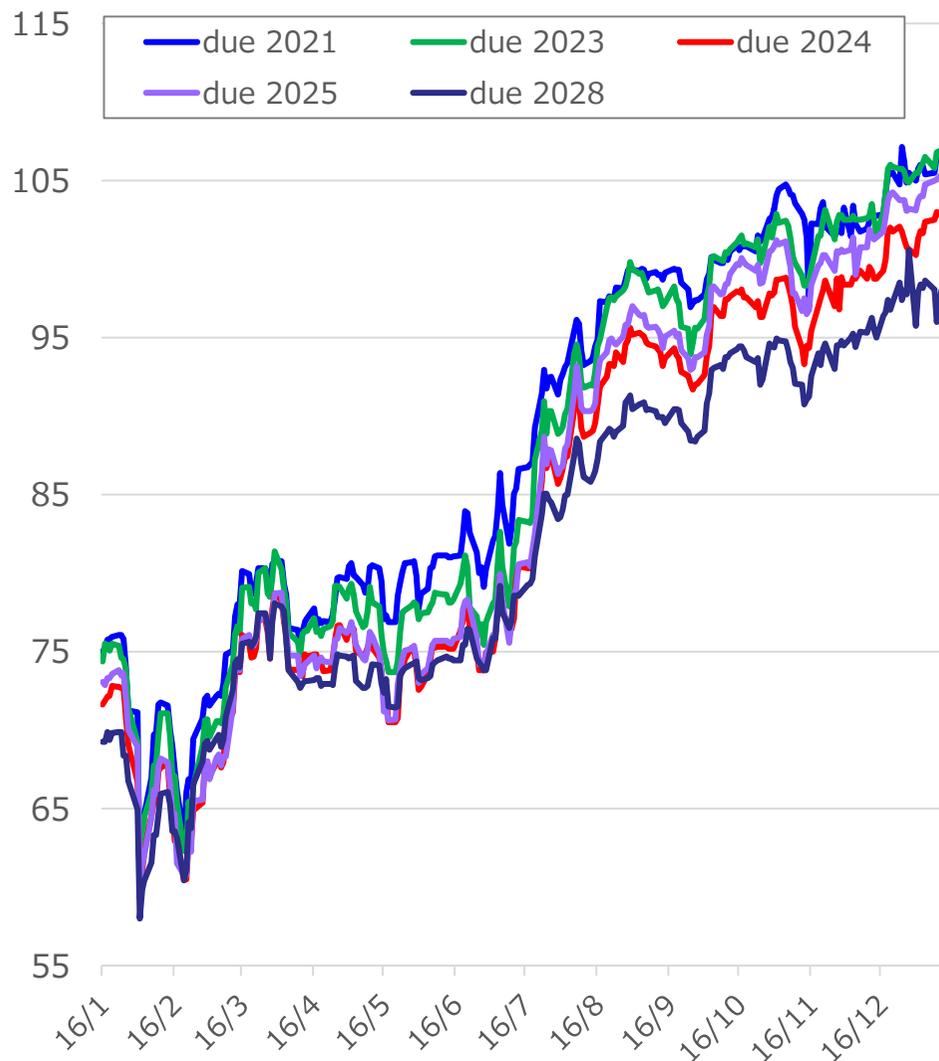
SBG 外債スプレッド



(※) Bloomberg より当社作成

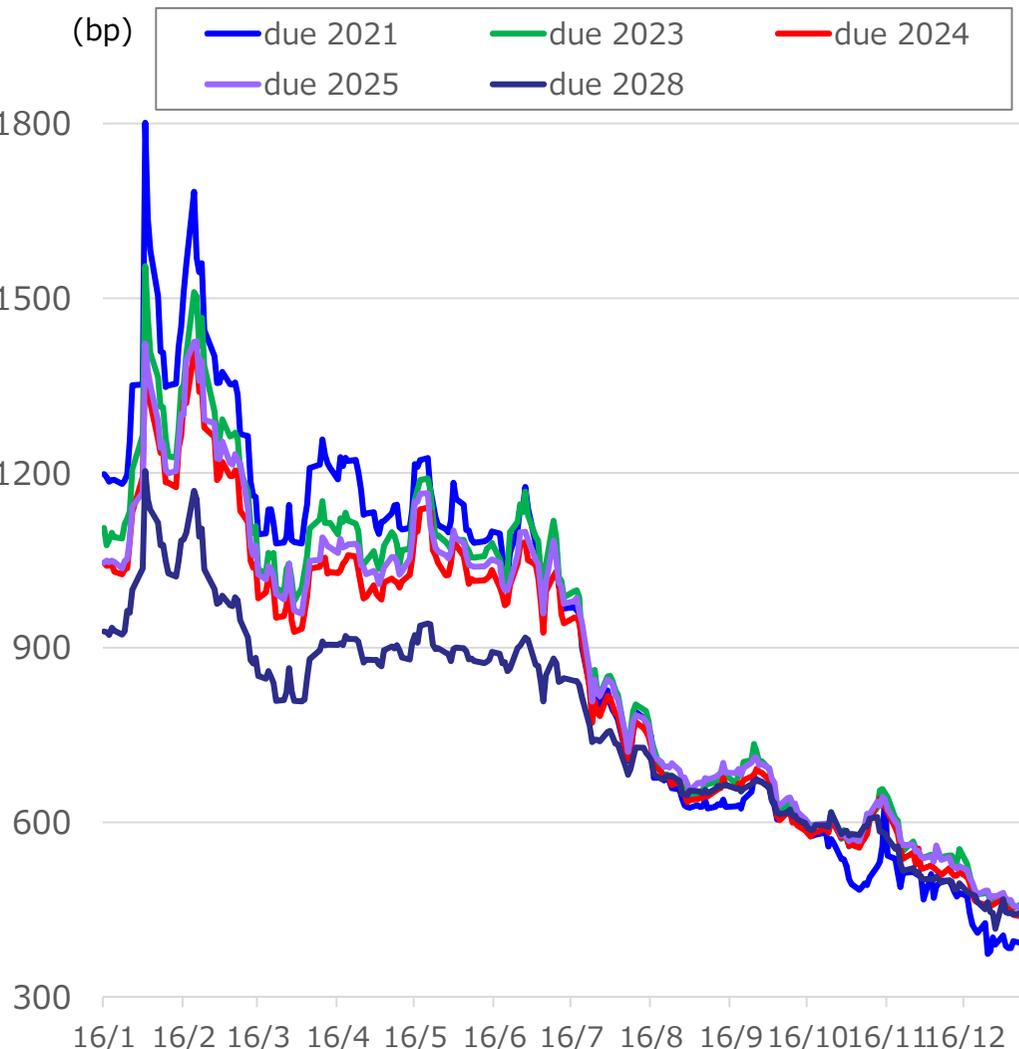
Sprint 社債価格・スプレッド

Sprint Senior Notes 価格



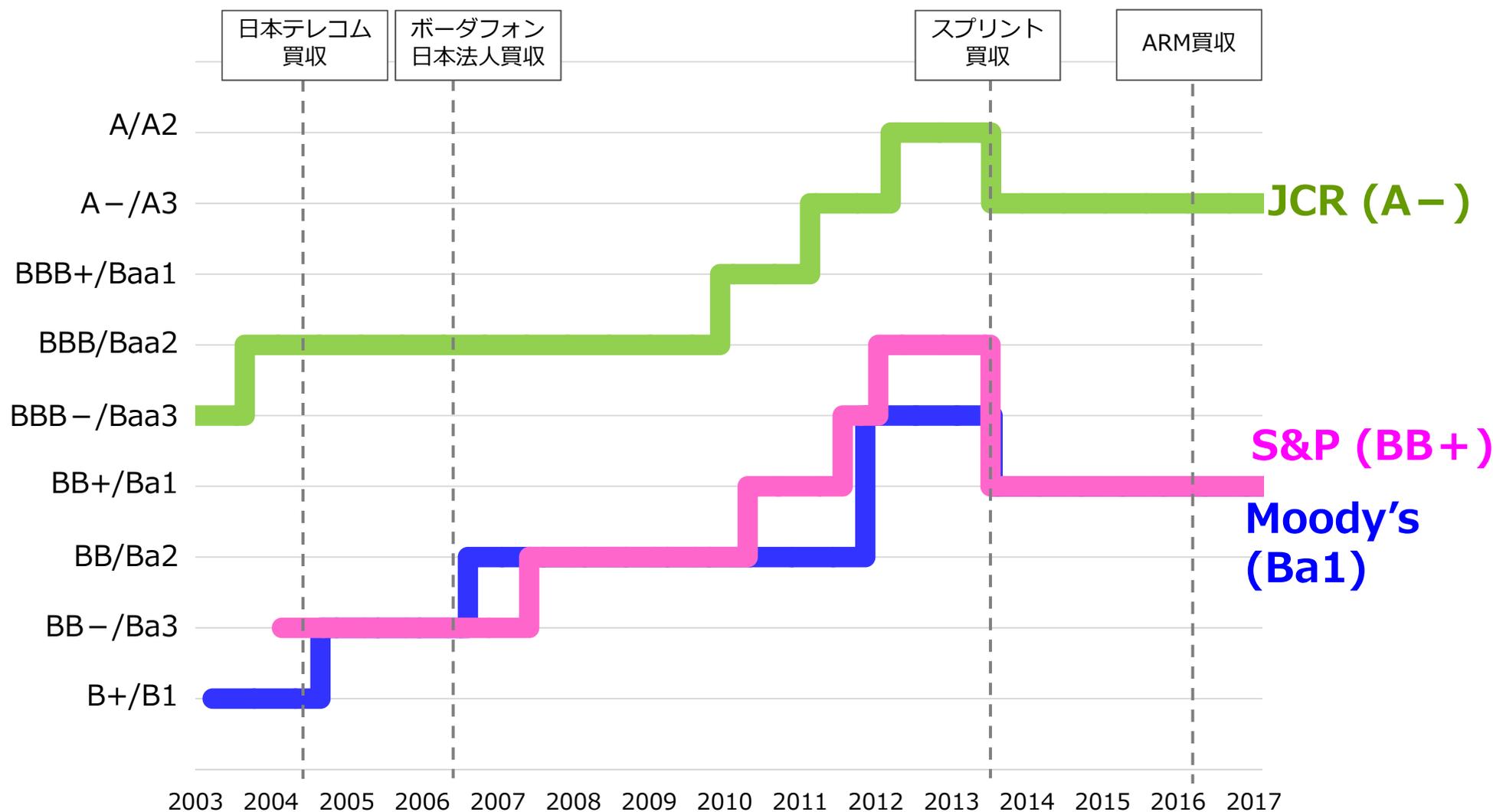
(※) Bloomberg より当社作成

Sprint Senior Notes スプレッド



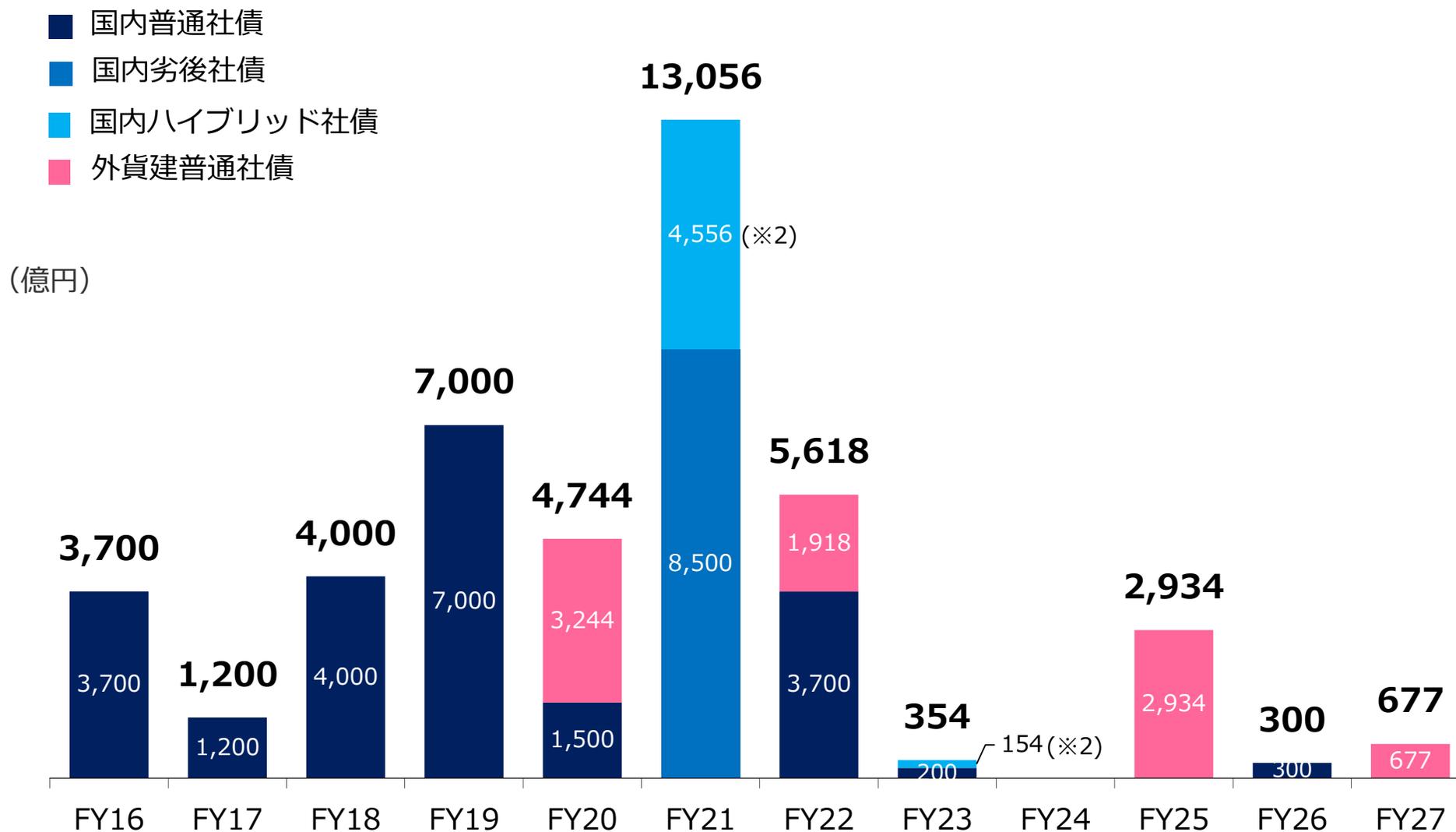
(※) Bloomberg より当社作成

ソフトバンクグループの格付推移



(※) 暦年で作成

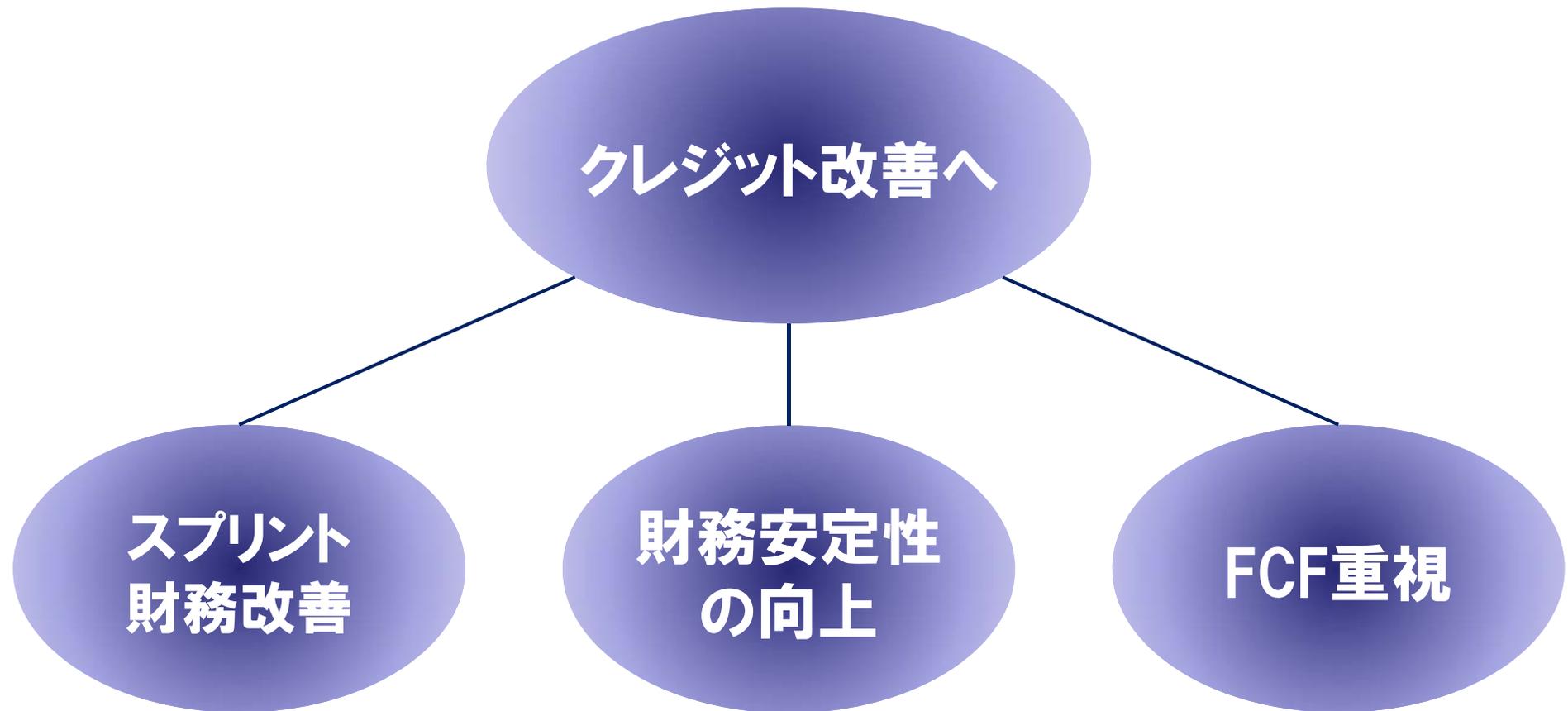
ソフトバンクグループ 社債償還スケジュール



(※1) 2016年12月末時点発行残高

(※2) ハイブリッド債を早期償還するケース

長期的成長を支える財務基盤の更なる強化



- 資金調達面でのサポートを徹底
- 本邦金融機関との関係強化

- 年限長期化・調達手段多様化
(現在の調達環境をフル活用)
- 常に豊富な手元流動性を確保

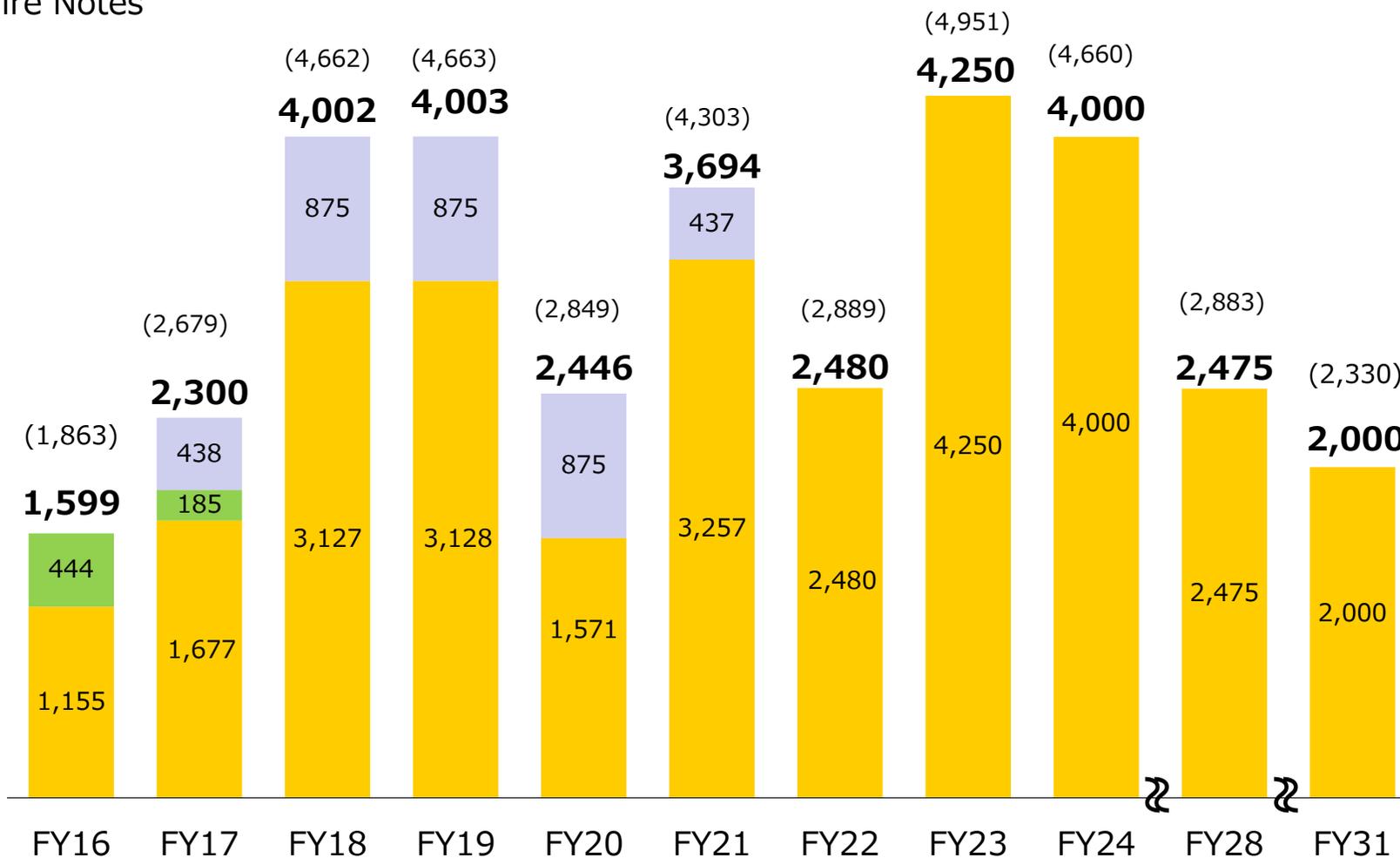
- 格付への影響を考慮した成長戦略の遂行
- 投資と回収のバランス

(ご参考)

スプリント 負債償還スケジュール

(USD mm / 括弧内は億円)

- スプリント Notes & Credit Facilities
- Secured Spectrum Notes
- Clearwire Notes



(※1) 2016年12月末時点発行残高

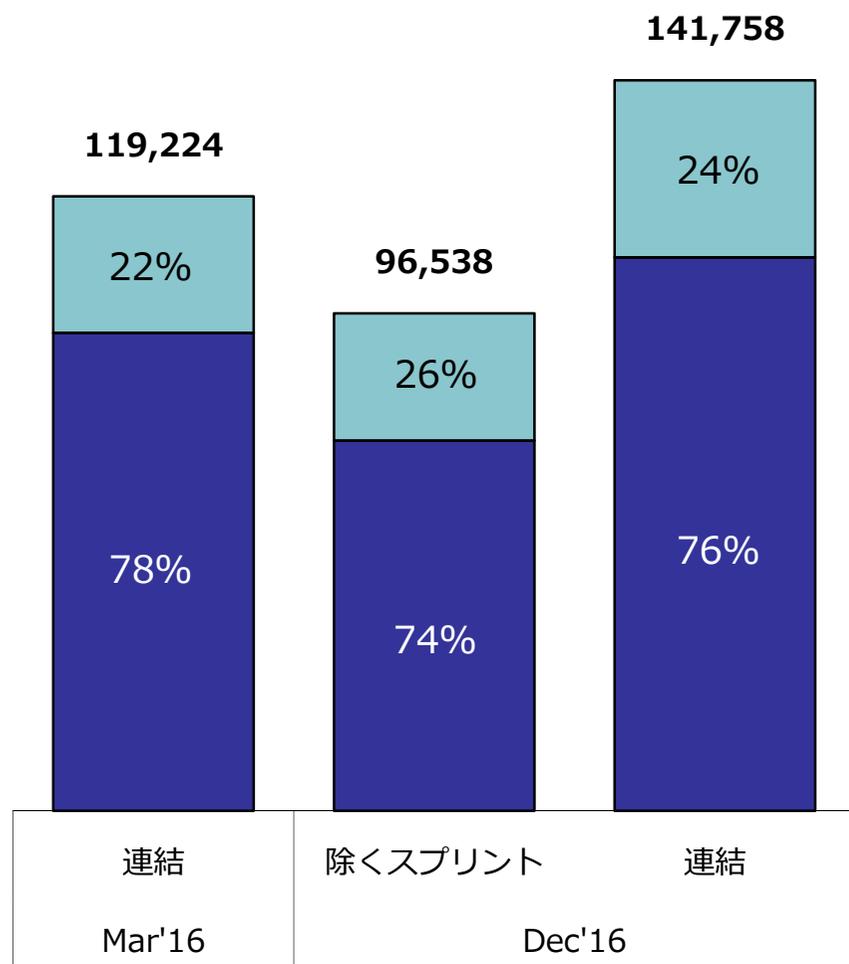
(※2) 1ドル=116.49円にて換算

有利子負債の長短・固定変動比

有利子負債：長短比

(億円)

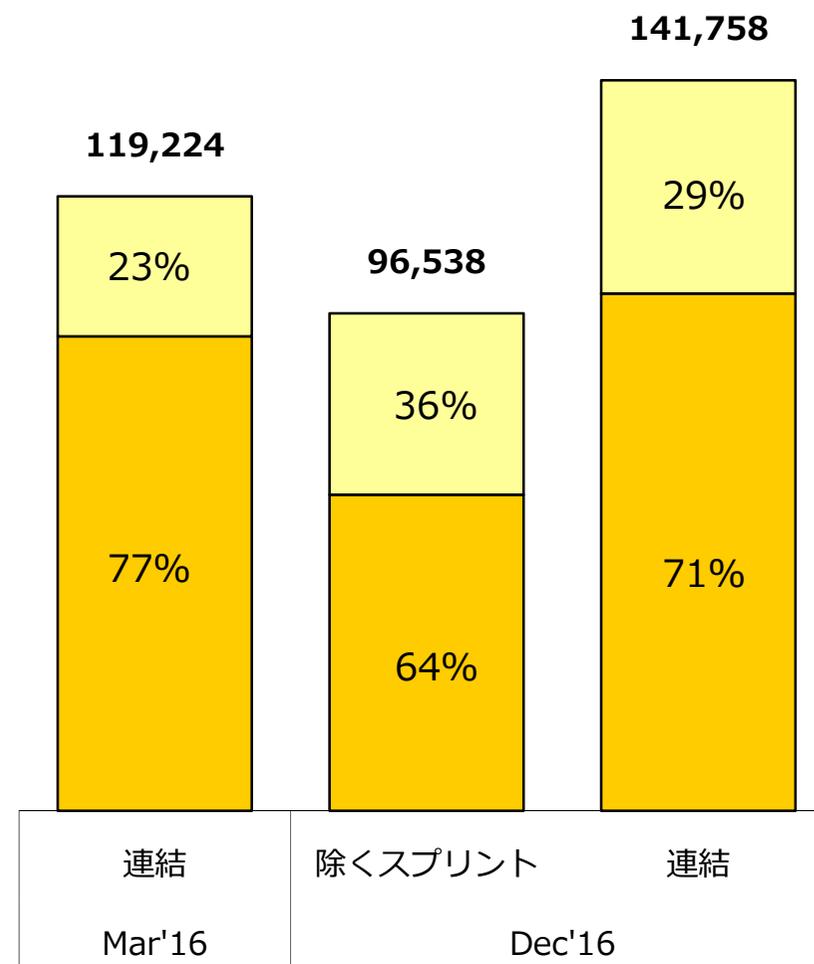
■ 長期 ■ 短期



有利子負債：固定変動比

(億円)

■ 固定 ■ 変動

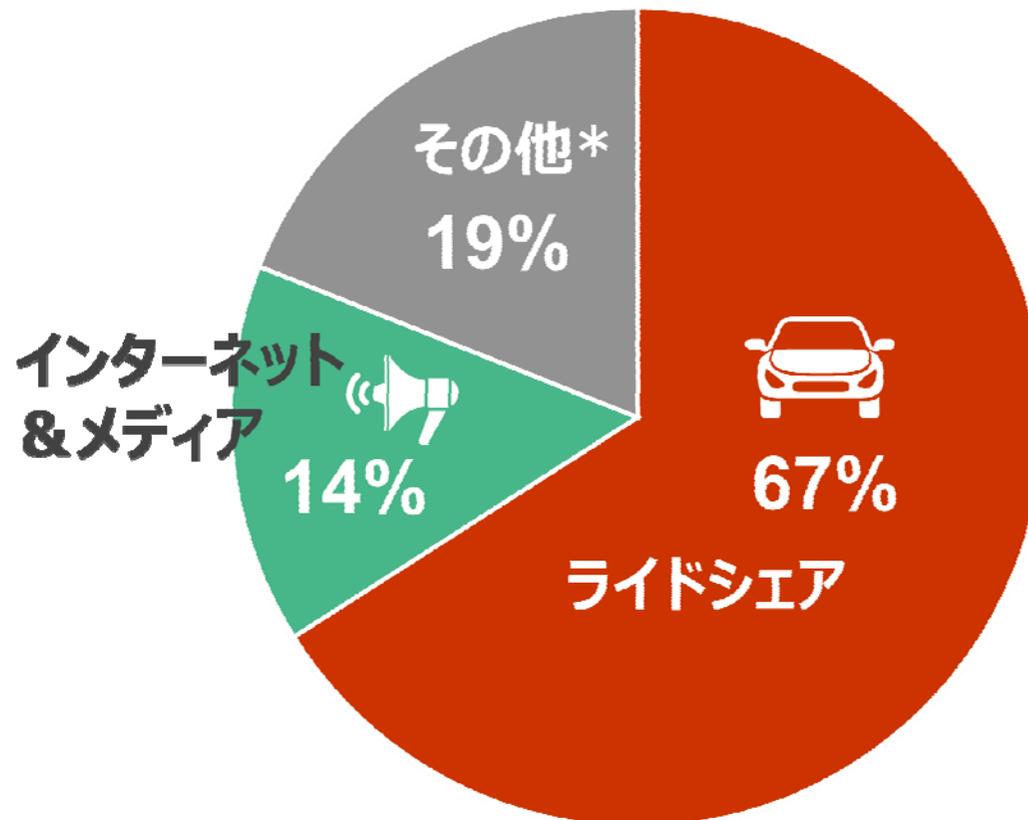
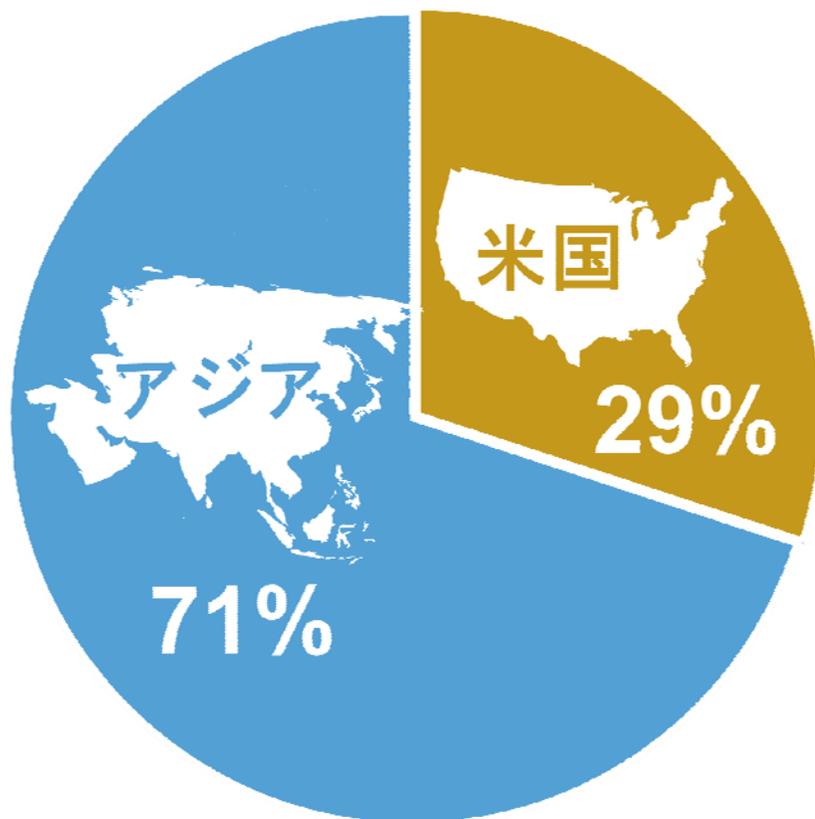


ポートフォリオ企業群

<p>イーコマース</p>	
<p>ライドシェア</p>	
<p>フィンテック</p>	
<p>インターネット & メディア</p>	
<p>AI & コネクテッドデバイス</p>	
<p>コンピューショナル・バイオロジー</p>	

* 一部抜粋。Eコマースにクラシファイドサービスを含む

総額：17.5億ドル



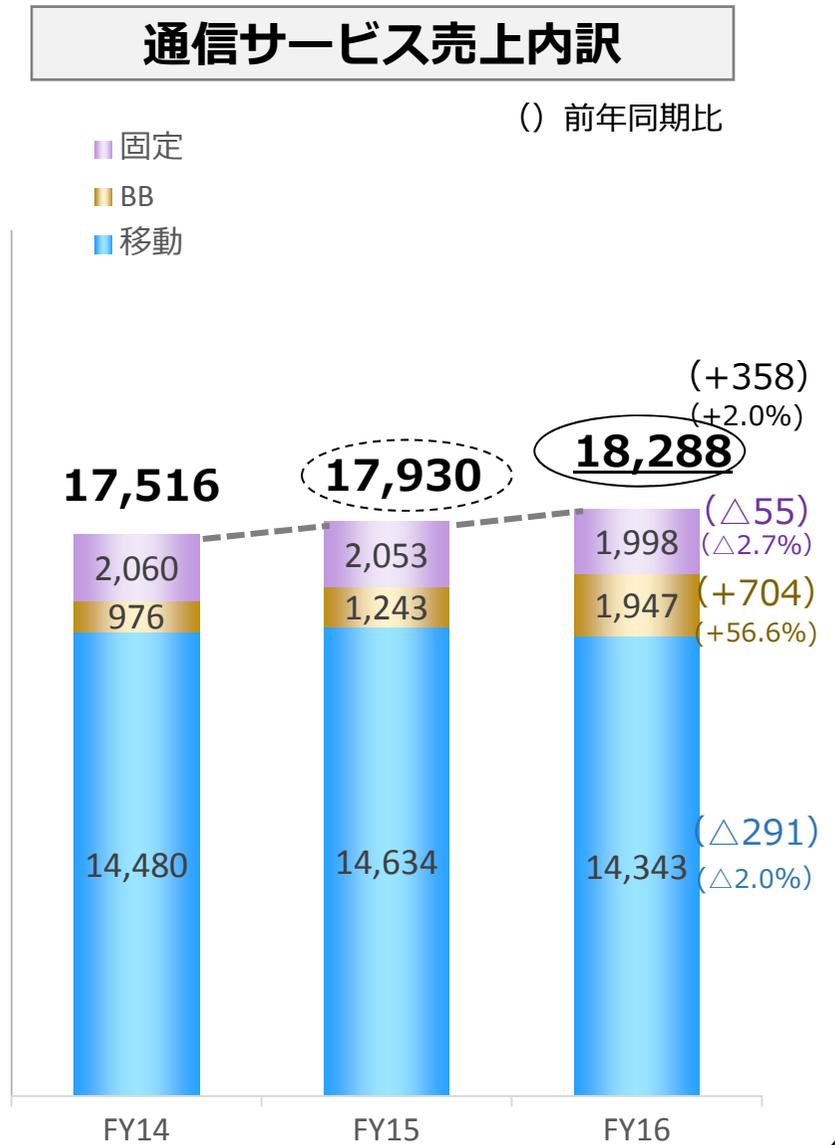
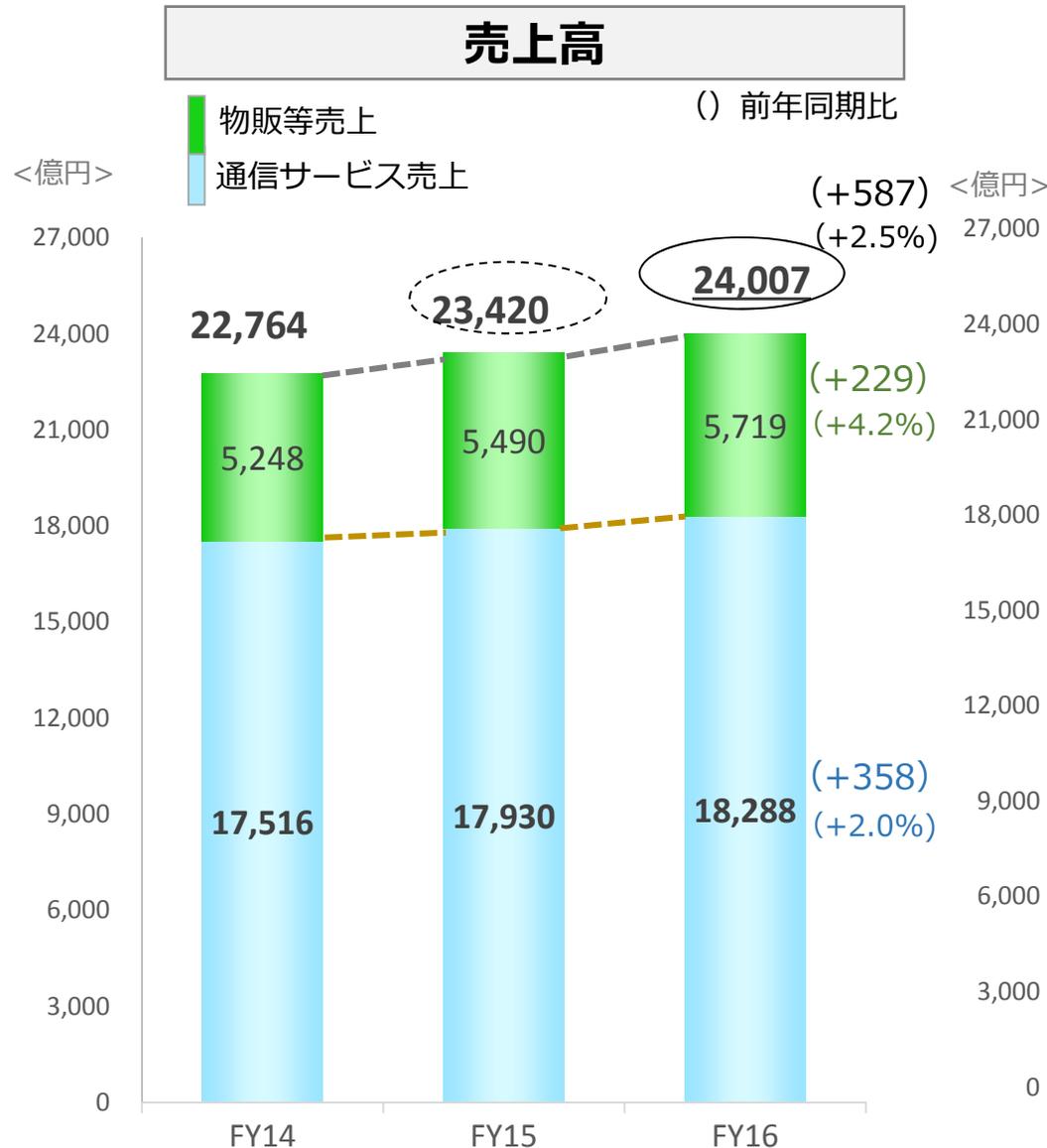
(※) イーコマース、コンピューショナル・バイオロジー、AI & コネクテッドデバイスを含む
2016年1月～2016年12月

国内通信事業編

1. 売上高

<国内通信事業>

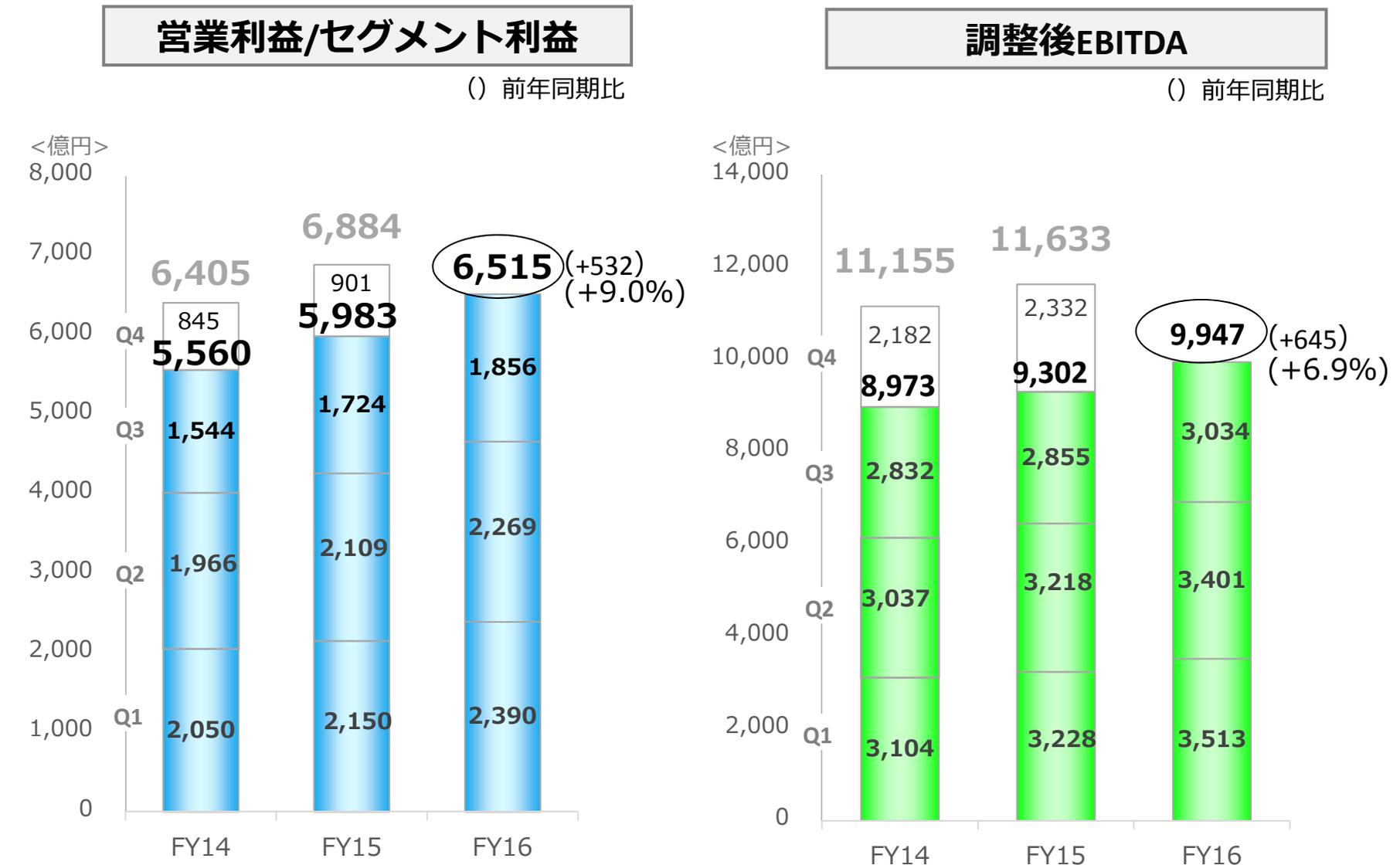
- FY16Q3の売上高は約2.4兆（前年同期比587億増加：通信+358億、物販等+229億）
- BB事業が大きく貢献（前年同期比704億増加）



2. 営業利益・調整後EBITDA

<国内通信事業>

■ FY16Q3セグメント利益は6,515億、前年同期比+532億

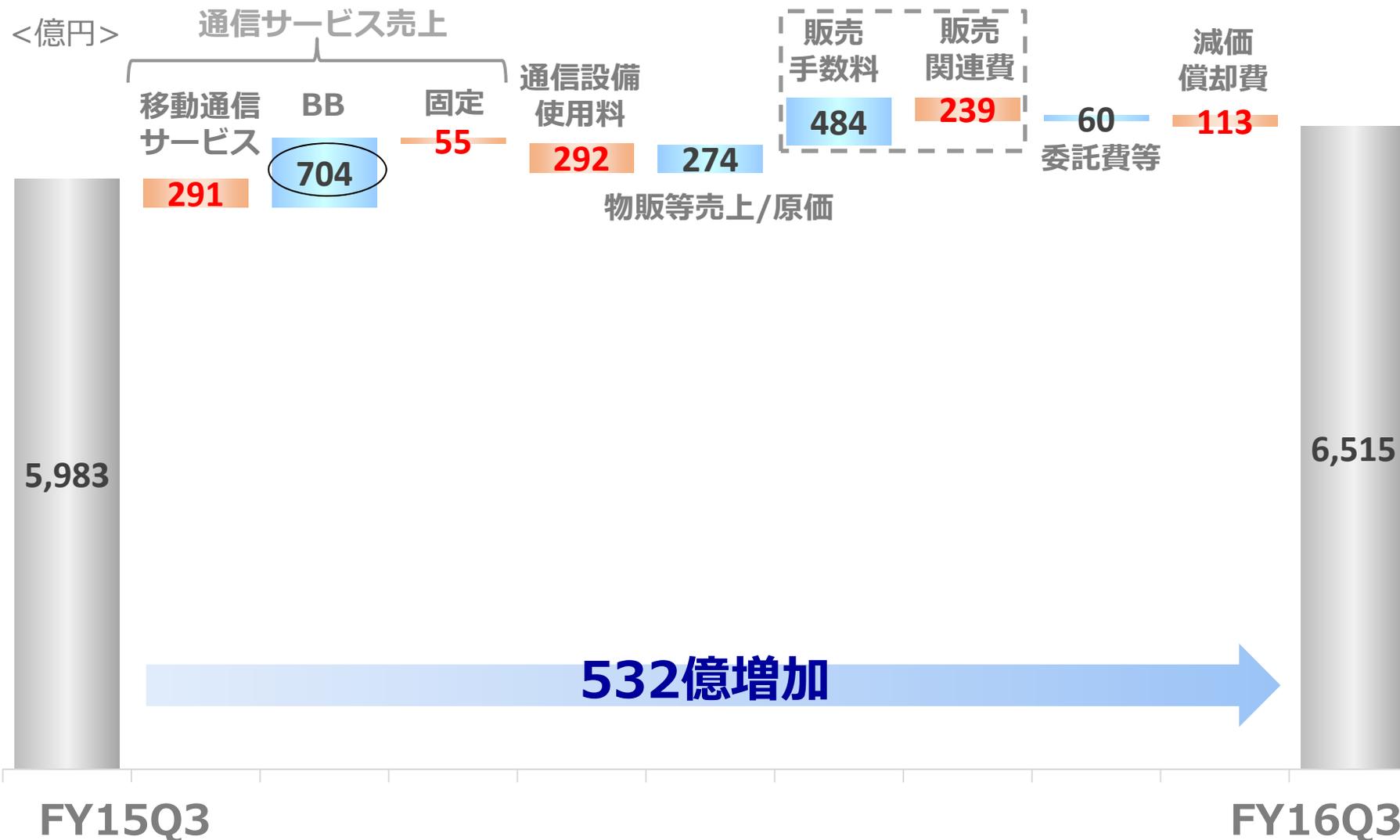


※調整後EBITDA = セグメント利益 + 減価償却費および償却費 ± 企業結合に伴う再測定による利益 ± その他の営業損益

3. セグメント利益の前年同期対比

<国内通信事業>

- トップラインはBB事業が牽引（通信設備使用料は292億の増加）
- コスト減少が増益に貢献

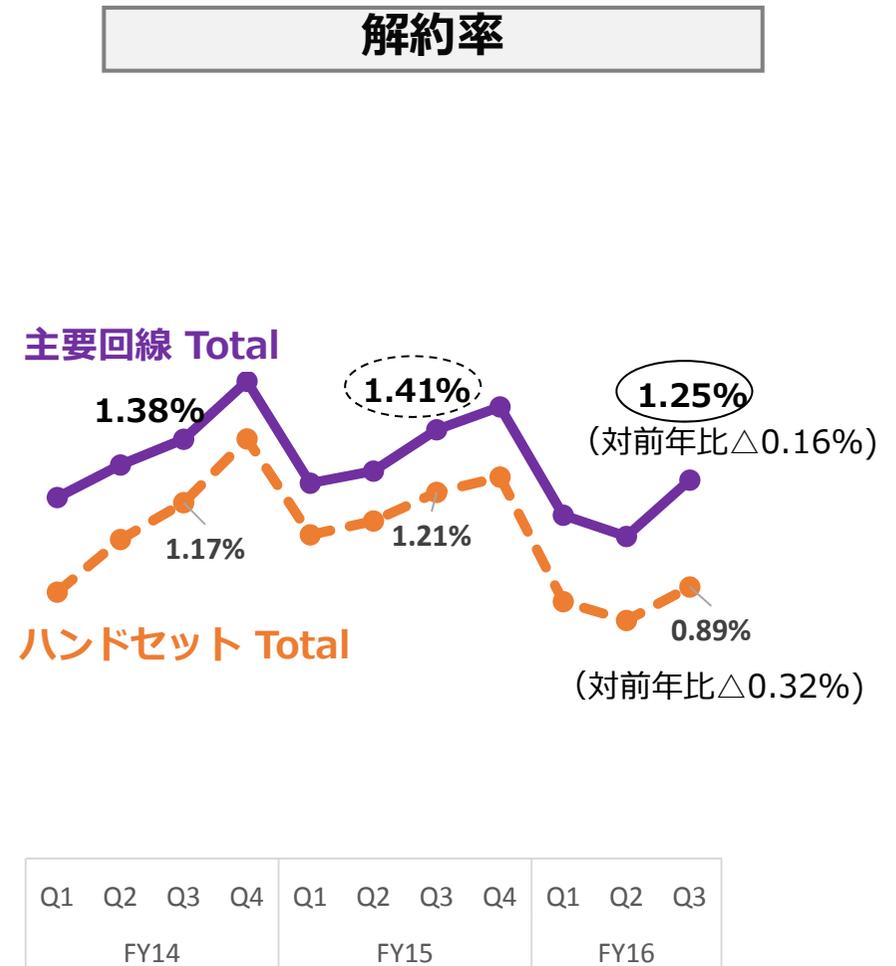
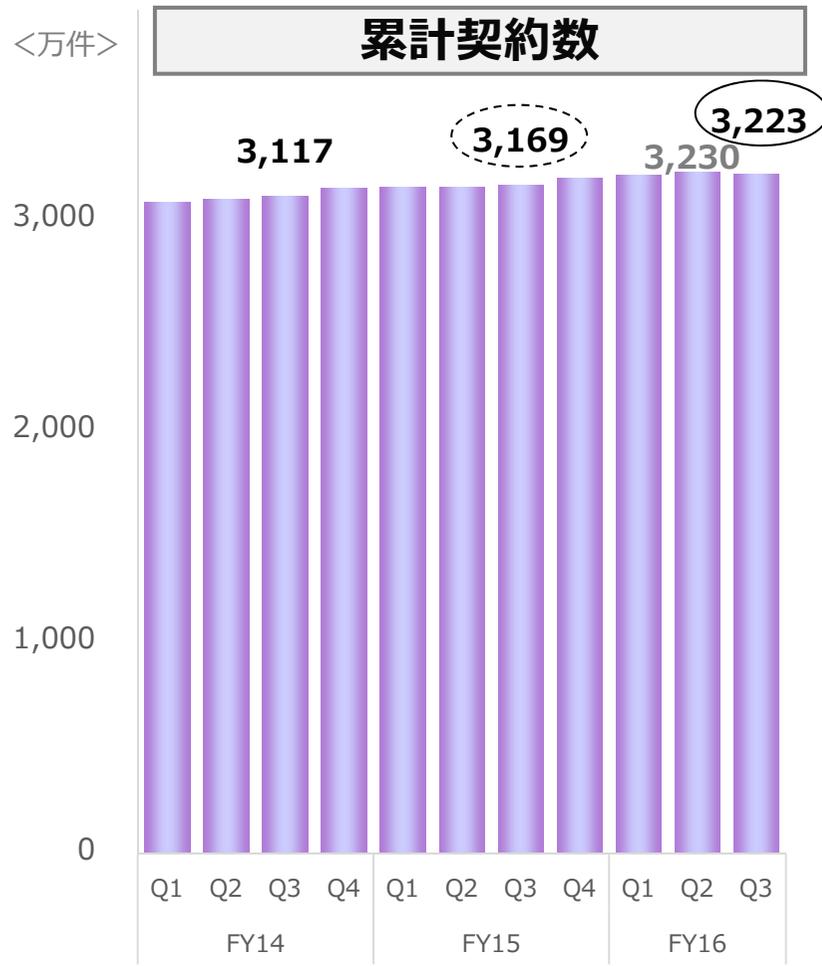


4. 契約数・解約率（主要回線）

<国内通信事業>

- 契約数: 前年同期比+54万件、ハンドセットが増加、MBB減少の影響大
- 解約率: 前年同期比0.16%改善、ハンドセットが大幅に改善

主要回線：ハンドセット・タブレット・MBB(※)

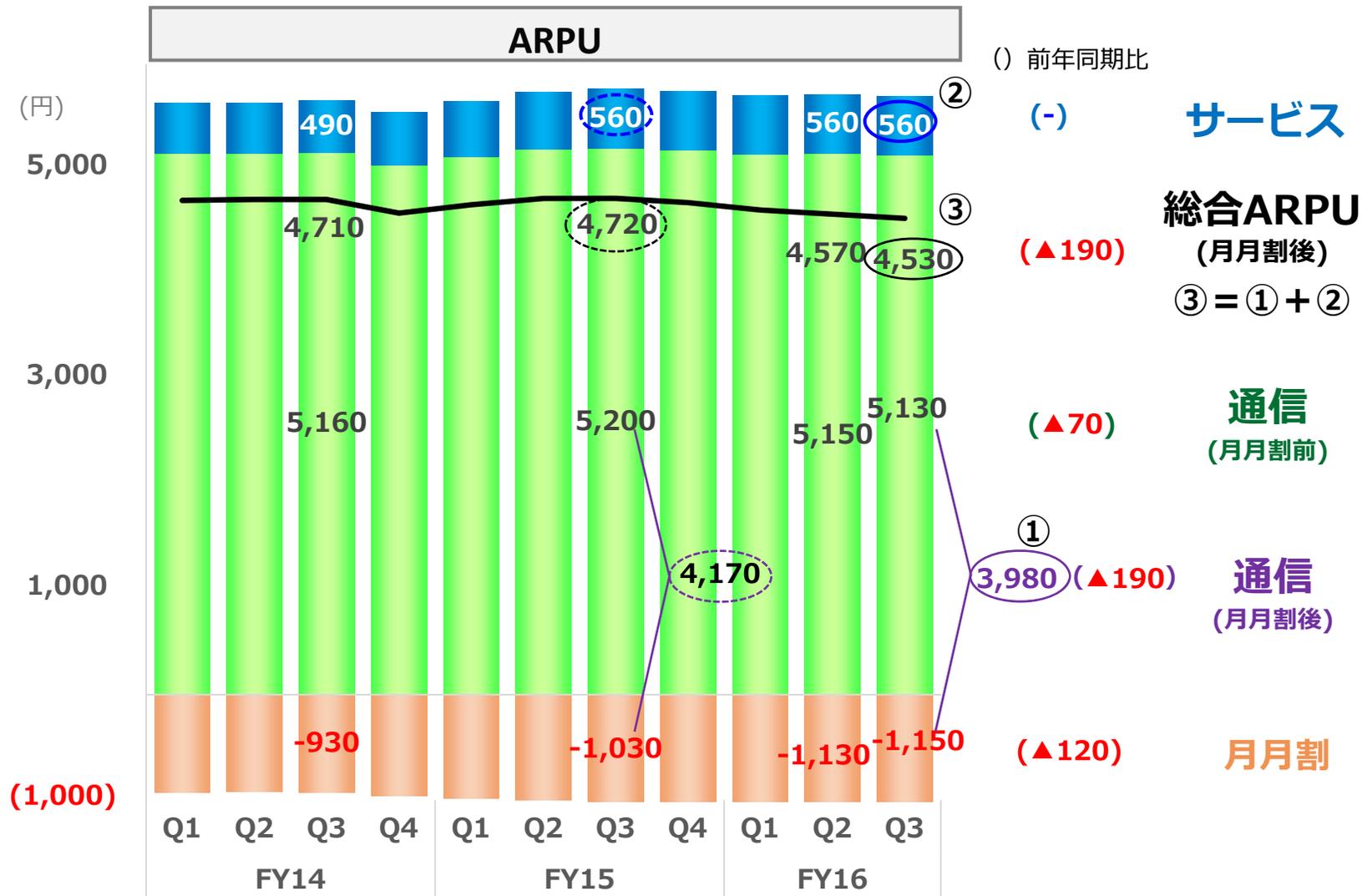


※主要回線、解約率の詳細な定義については本資料P.57を参照。

5. ARPU (主要回線)

<国内通信事業>

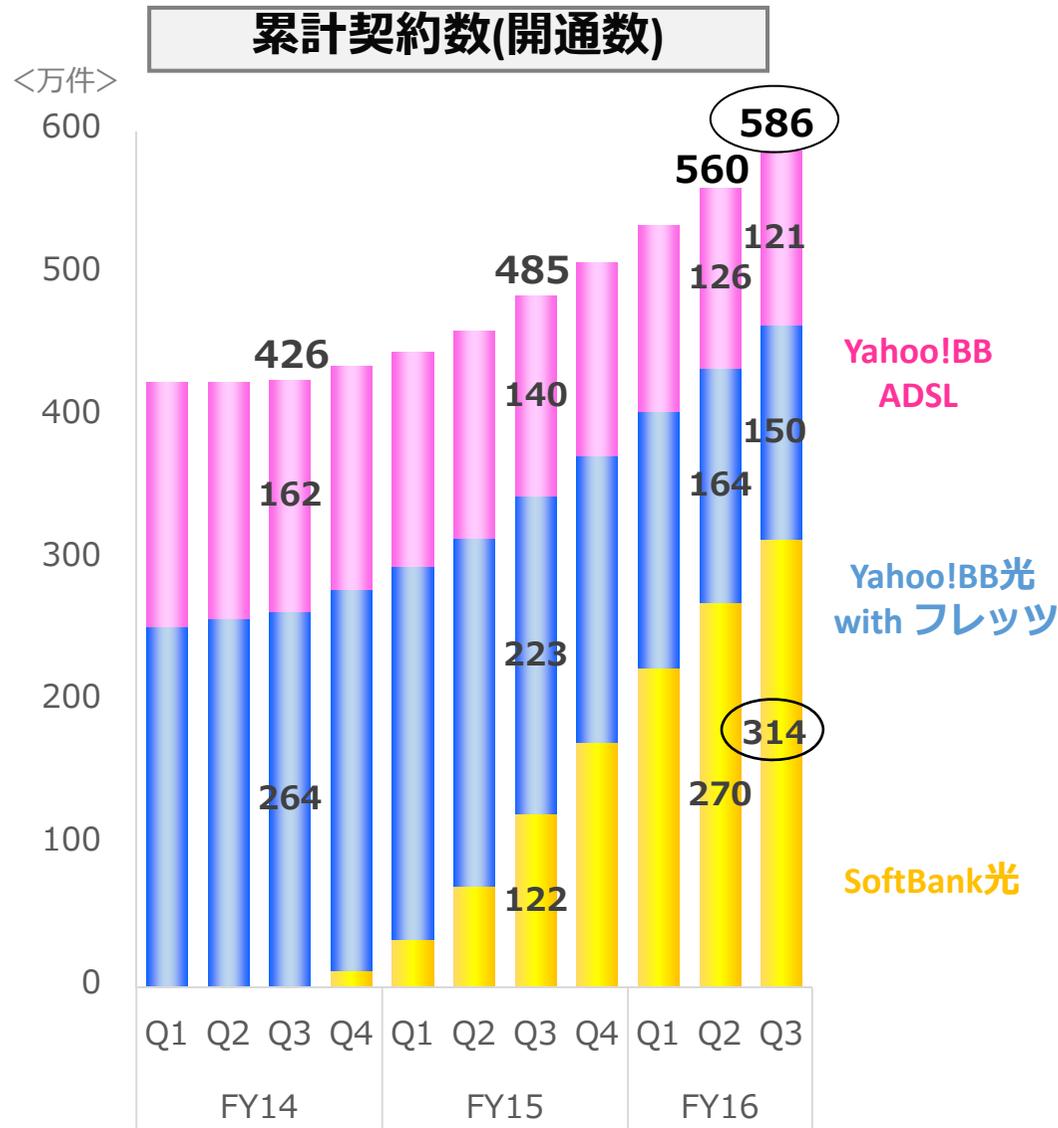
- Q3のARPUは4,530円(▲190) : サービス560円(-)、通信3,980円(▲190)
- YMスマホの構成増、おうち割光セット拡大等により、通信ARPUは減少傾向



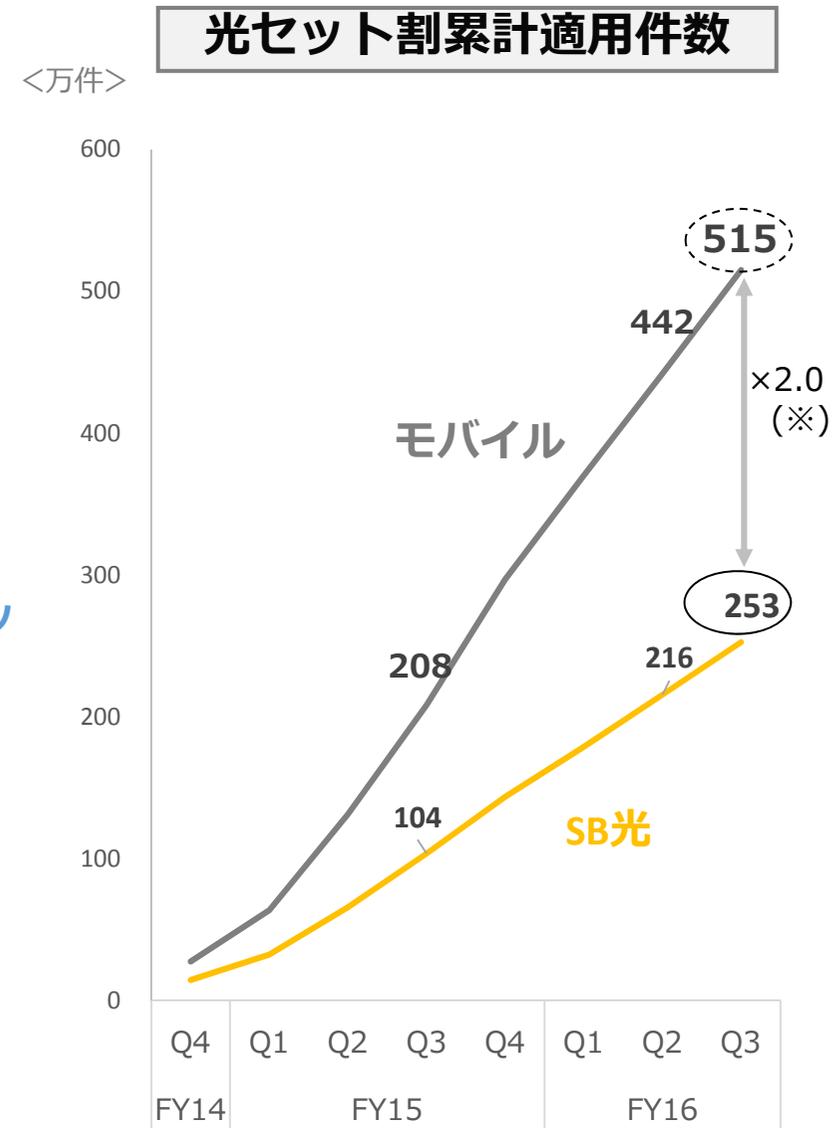
6. BBサービスの進捗

<国内通信事業>

■ SoftBank光のQ3末契約数(開通)は314万件、獲得は順調に推移



※SoftBank光にはSoftBank Airを含む



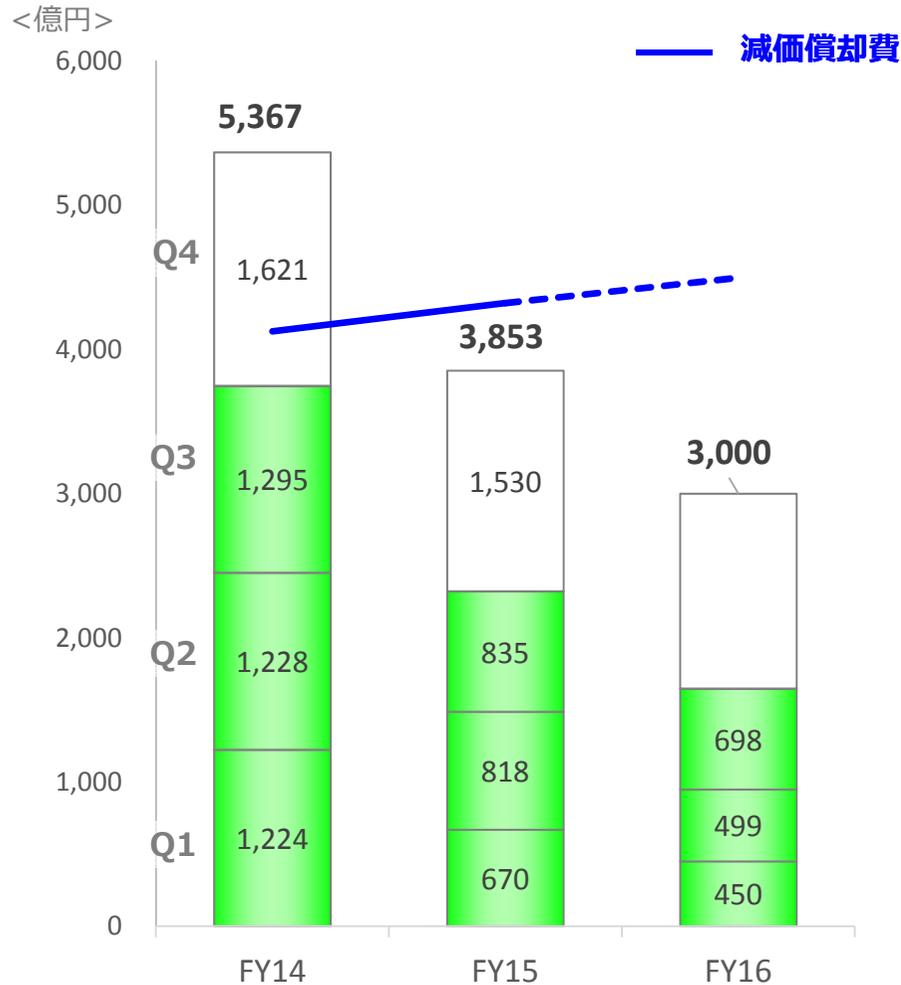
※SB光1件当たりのモバイルセット割適用件数

7. 設備投資推移/FCF

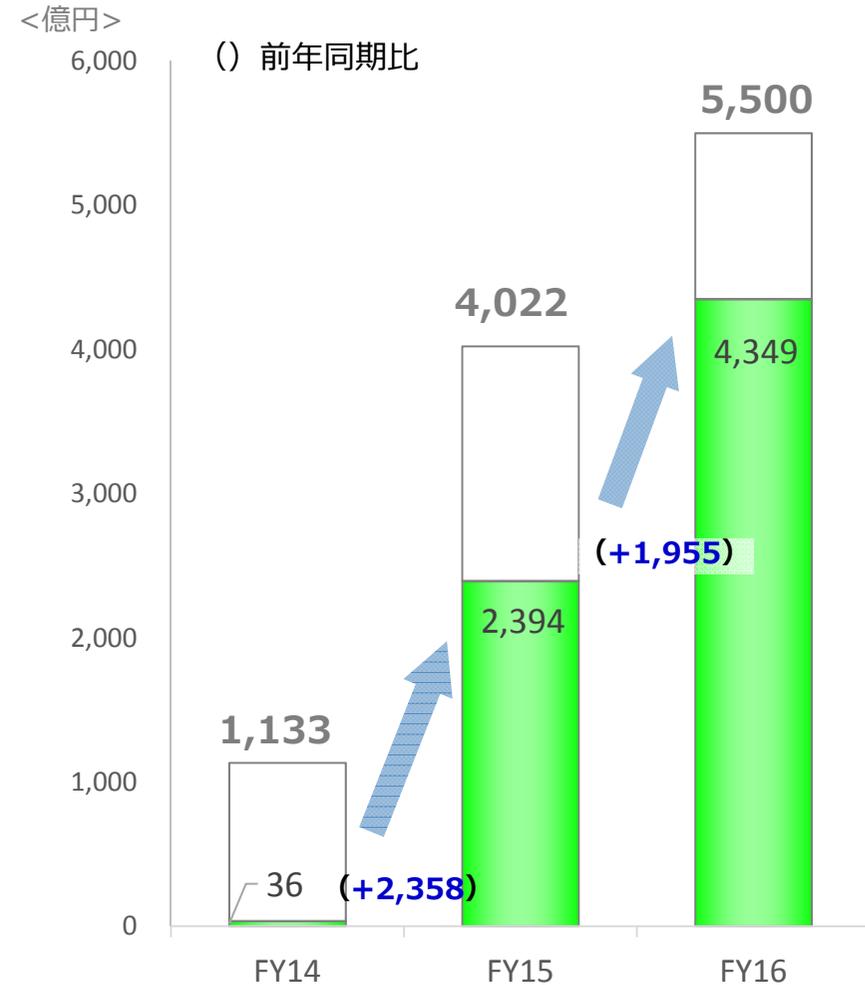
<国内通信事業>

- FY16の設備投資は約3,000億円
- FCFの通期予想は5,500億円へ上方修正

設備投資



FCF(*調整後)



* 検収ベース。除却費含む（レンタル端末/顧客資産償却除く）

* ソフトバンクグループ(株)との内部取引を除く

8. 成長戦略

- ① 顧客基盤の拡大 (スマホ/光)
- ② 戦略領域に注力 (OTT/新領域)



8. Yahoo! JAPANとのシナジー

- ソフトバンクスマホユーザーのネットショッピングを快適に

YAHOO! ショッピング
JAPAN



48万ストア



2.5億品目

LOHACO



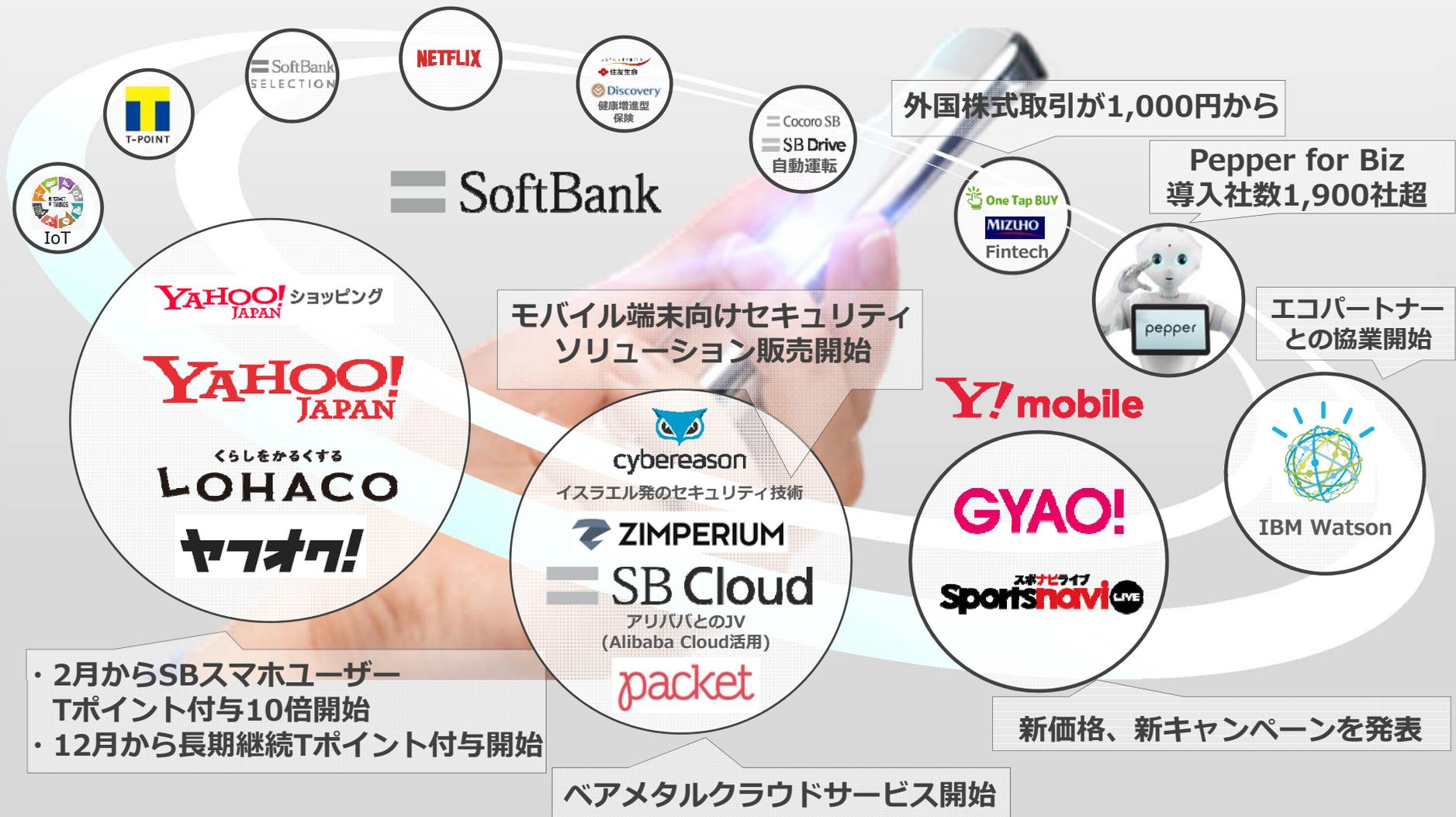
SBスマホユーザーなら
毎日ポイント10倍

※2017年2月1日～5月31日 ポイント:Yahoo! JAPANサービスで使える期間固定ポイント
※スマートログインの設定が必要 ※ストア数、品目数は2016年12月末時点

8. 戦略領域の取組み

<国内通信事業>

スマホ・光を中心に収益機会を創出



(ご参考) 国内通信事業 売上内訳

<国内通信事業>

<億円>

	FY2015					FY2016		
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3
売上高合計	7,226	7,855	8,339	8,027	31,447	7,618	7,928	8,461
通信サービス売上	5,869	5,999	6,062	6,121	24,050	6,058	6,095	6,135
移動通信サービス	4,827	4,887	4,920	4,900	19,534	4,801	4,781	4,761
通信	4,296	4,347	4,358	4,318	17,320	4,220	4,201	4,193
サービス	531	540	561	582	2,214	581	580	568
ブロードバンドサービス	372	421	450	527	1,770	592	646	709
固定通信サービス	669	691	693	694	2,747	664	668	665
物販等売上	1,357	1,856	2,277	1,906	7,396	1,560	1,833	2,326

ソフトバンクのARPU等の定義および算出方法

<移動通信サービス>

1. 契約数

主要回線 : スマートフォン（注1）、従来型携帯電話、タブレット、モバイルデータ通信端末（注2）
通信モジュール等 : 通信モジュール（注3）、みまもりケータイ、プリペイド式携帯電話など
PHS : PHS

（注1）「スマホファミリー割」適用のスマートフォンは、「通信モジュール等」に含まれる。

（注2）「データカードにねん得割」適用のモバイルデータ通信端末は、「通信モジュール等」に含まれる。

（注3） PHS回線を利用した通信モジュールは、「PHS」に含まれる。

2. ARPU

ARPU（Average Revenue Per User） : 1 契約当たりの月間平均収入

総合ARPU = （データ関連収入 + 基本料・音声関連収入など + 端末保証サービス収入、コンテンツ関連収入、広告収入など）
÷ 稼働契約数（10円未満を四捨五入して開示）

通信ARPU = （データ関連収入（パケット通信料・定額料、インターネット接続基本料など）
+ 基本料・音声関連収入（基本使用料、通話料、着信料収入など）） ÷ 稼働契約数（10円未満を四捨五入して開示）

サービスARPU = （端末保証サービス収入、コンテンツ関連収入、広告収入など） ÷ 稼働契約数（10円未満を四捨五入して開示）

稼働契約数 : 当該期間の各月稼働契約数（（月初契約数 + 月末契約数） ÷ 2）の合計値

着信料収入 : 他の通信事業者の顧客が「ソフトバンク」および「Y!mobile」携帯電話へ通話する際に、ソフトバンクが役務提供している区間の料金として他の通信事業者から受け取る接続料

月々割 : 「おうち割光セット」の値引き額を含む

3. 解約率

解約率 : 月間平均解約率（小数点第3位を四捨五入して開示）

解約率（ハンドセット） : 主要回線のうち、スマートフォンおよび従来型携帯電話（音声SIMを含む）の解約率

解約率 = 解約数 ÷ 稼働契約数

解約数 : 当該期間における解約総数。MNP制度を利用して、「ソフトバンク」と「ワイモバイル」の間で乗り換えが行われる際の新規契約は機種変更数に含まれる。

稼働契約数 : 当該期間の各月稼働契約数（（月初契約数 + 月末契約数） ÷ 2）の合計値

4. おうち割光セット

移動通信サービスと「SoftBank 光」などのブロードバンドサービスをセットで契約する顧客に対して、移動通信サービスの通信料金を割り引くサービス

累計適用件数 : 「Y!mobile」ブランドの移動通信サービスに適用される割引サービス「光おトク割」の適用件数を含む。東日本電信電話株式会社（NTT 東日本）および西日本電信電話株式会社（NTT 西日本）の局舎において光回線の接続工事が完了していない場合でも、当該光回線に紐づく移動通信サービスに対して「おうち割 光セット」がすでに適用されている場合には、当該光回線を「おうち割 光セット」の適用件数に含む

<ブロードバンドサービス>

契約数

「SoftBank 光」契約数 : NTT 東日本およびNTT 西日本の局舎において光回線の接続工事が完了している回線数。「SoftBank Air」契約数を含む。

「Yahoo! BB 光 with フレッツ」契約数 : NTT 東日本およびNTT 西日本の局舎において光回線の接続工事が完了し、サービスを提供しているユーザー数

「Yahoo! BB ADSL」契約数 : NTT 東日本とNTT 西日本の局舎においてADSL 回線の接続工事が完了している回線数

スプリント編



Fiscal 3Q16 Results
SoftBank Investor Briefing

February 10, 2017

Cautionary Statement



SAFE HARBOR

This release includes “forward-looking statements” within the meaning of the securities laws. The words “may,” “could,” “should,” “estimate,” “project,” “forecast,” “intend,” “expect,” “anticipate,” “believe,” “target,” “plan,” “outlook,” “providing guidance,” and similar expressions are intended to identify information that is not historical in nature. All statements that address operating performance, events or developments that we expect or anticipate will occur in the future — including statements relating to our network, cost reductions, connections growth, and liquidity; and statements expressing general views about future operating results — are forward-looking statements. Forward-looking statements are estimates and projections reflecting management’s judgment based on currently available information and involve a number of risks and uncertainties that could cause actual results to differ materially from those suggested by the forward-looking statements. With respect to these forward-looking statements, management has made assumptions regarding, among other things, the development and deployment of new technologies and services; efficiencies and cost savings of new technologies and services; customer and network usage; connection growth and retention; service, speed, coverage and quality; availability of devices; availability of various financings, including any leasing transactions; the timing of various events and the economic environment. Sprint believes these forward-looking statements are reasonable; however, you should not place undue reliance on forward-looking statements, which are based on current expectations and speak only as of the date when made. Sprint undertakes no obligation to publicly update or revise any forward-looking statements, whether as a result of new information, future events or otherwise, except as required by law. In addition, forward-looking statements are subject to certain risks and uncertainties that could cause actual results to differ materially from our company’s historical experience and our present expectations or projections. Factors that might cause such differences include, but are not limited to, those discussed in Sprint Corporation’s Annual Report on Form 10-K for the fiscal year ended March 31, 2016. You should understand that it is not possible to predict or identify all such factors. Consequently, you should not consider any such list to be a complete set of all potential risks or uncertainties.

Fiscal 3Q 2016 Highlights



Net Operating Revenues Grew
year-over-year for the second consecutive quarter



Operating Expenses
more than **\$1.6B**
of year-to-date reductions in CoS and SG&A



Operating Income & Adjusted EBITDA*
Improved more than **\$500M** year-over-year



Postpaid Phone Net Adds[^]
9 consecutive quarters of year-over-year growth



Liquidity
Over **\$9B**
of general purpose liquidity



Network
Performing at **Best Ever**
levels as recognized by third parties



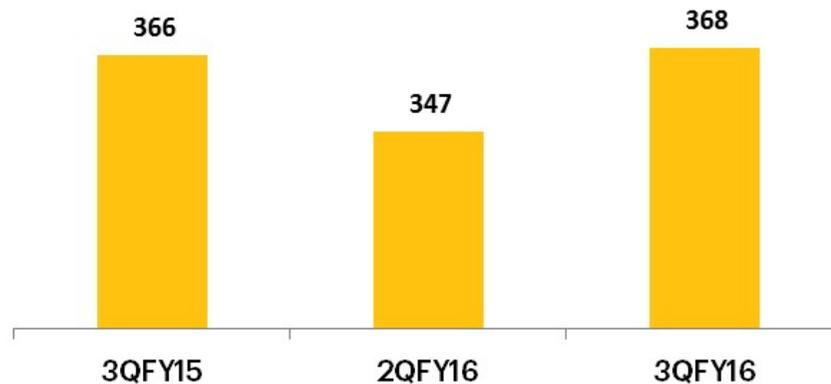
[^] indicates results specific to Sprint Platform

Growing Connections

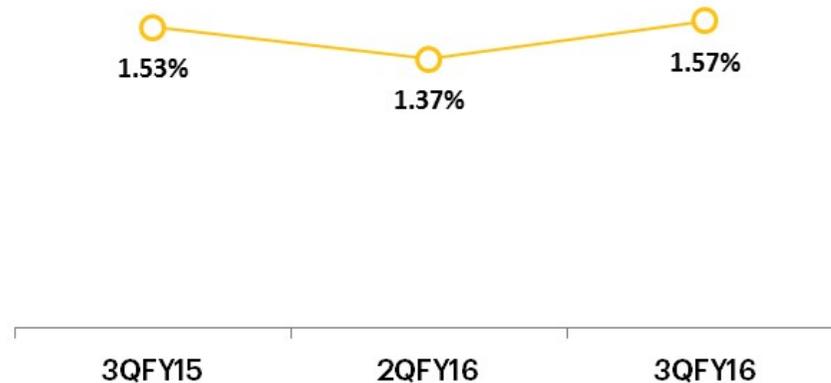


Postpaid Phone Net Adds[^]

In Thousands



Postpaid Phone Churn[^]

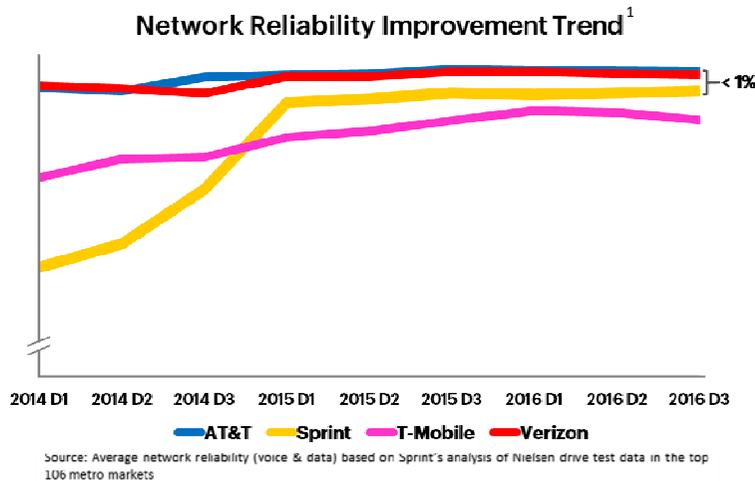


➤ Postpaid phone net adds highest in last 4 years

- ✓ Improved y/y for 9th consecutive quarter
- ✓ 888,000 YTD is more than double the full year last year
- ✓ Beat Verizon for the 4th consecutive quarter and AT&T for the 9th consecutive quarter
- ✓ Postpaid phone gross adds highest in 4 years
- ✓ Grew share of industry postpaid phones

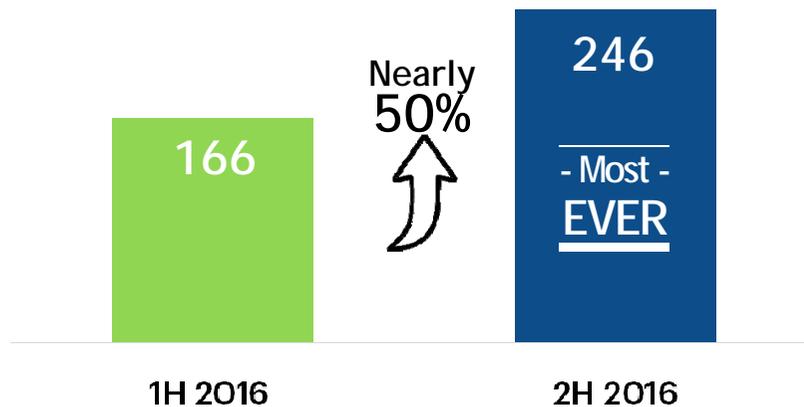
[^] indicates results specific to Sprint Platform

Network Performing at Best Ever Levels



- Network reliability continued to narrow the gap to best in class within less than 1 percent of AT&T and Verizon.¹
- RootMetrics® awarded Sprint 246 first-place place (outright or shared) Metropolitan area area RootScore® Awards for reliability, speed, speed, data, call, text, or overall network performance in the second half of 2016.²
- More Metropolitan area Call RootScore® Awards than Verizon, AT&T, or T-Mobile in the the second half of 2016 for the first time ever.² ever.²
- J.D. Power ranks Sprint 2nd highest in network quality across five of six regions in U.S.
- Computerworld reported that Sprint was the the most improved in latest survey

First or Shared First Place Metropolitan Area RootMetrics® RootScore® Awards²



1- Average network reliability (voice & data) based on Sprint's analysis of latest Nielsen drive test data in the top 106 metro markets.

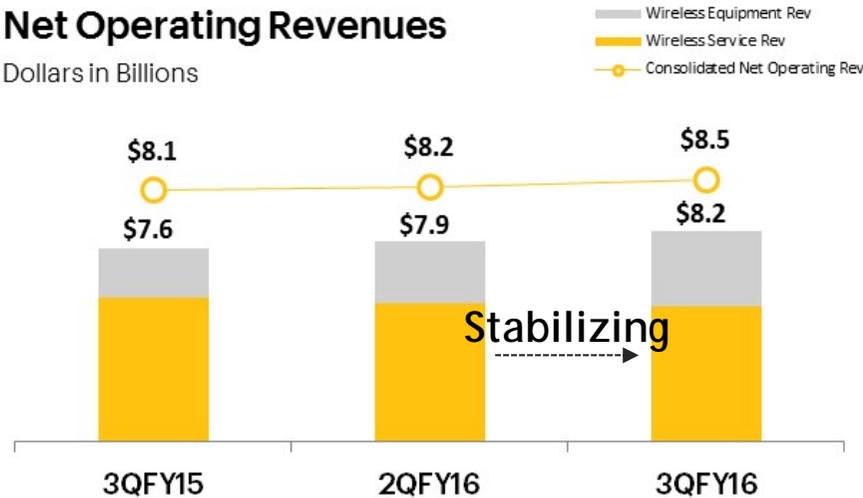
2- Rankings based on RootMetrics 125 Metro RootScore Reports (1H and 2H 2016) for mobile performance as tested on best available plans and devices on 4 mobile networks across all available network types. Your experience may vary. The RootMetrics awards are not an endorsement of Sprint. Visit www.rootmetrics.com.

Stabilizing Revenue



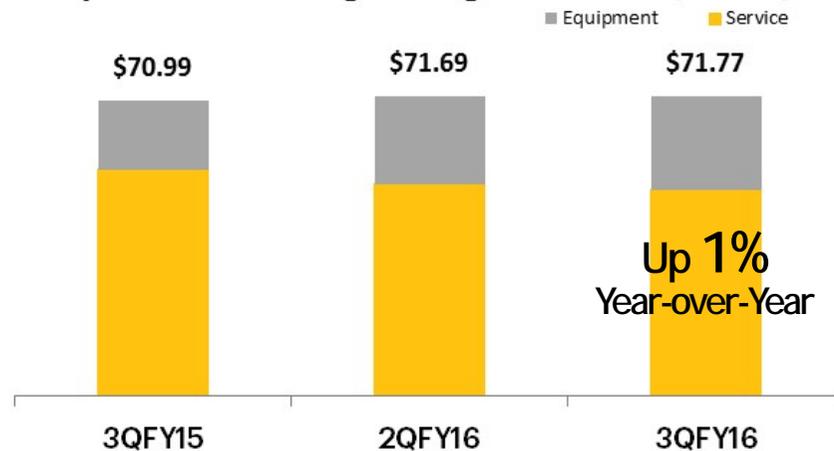
Net Operating Revenues

Dollars in Billions



- Consolidated net operating revenues grew over 5% y/y
- Wireless net operating revenues grew nearly 7% y/y
- Wireless service revenue and postpaid service revenue relatively flat sequentially
- Postpaid ABPA[^] increased 2% y/y
- Postpaid phone ABPU[^] increased 1% y/y
- 80% of postpaid device sales[^] in the quarter were financed, including 84% of postpaid phone sales[^] being financed
- 71% of postpaid phone base[^] on unsubsidized service plans

Postpaid Phone Avg Billings Per User (ABPU)[^]*



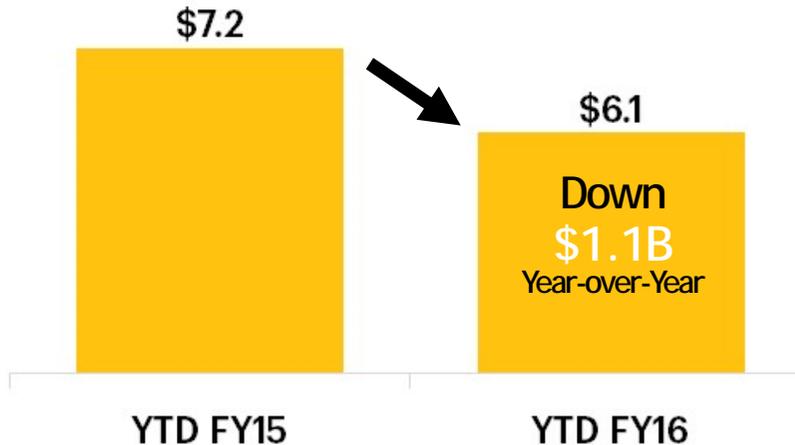
[^] indicates results specific to Sprint Platform

Reducing Operating Expenses



Cost of Services

Dollars in Billions



➤ More than \$1.6 billion of year-to-date reductions in cost of services and SG&A expenses

➤ Cost of services down \$423 million y/y in FY3Q16

✓ Lower labor expense

✓ Lower backhaul and roaming expenses

✓ Shutdown of WiMax network

Selling, General, and Administrative

Dollars in Billions



➤ SG&A expenses improved \$49 million y/y in FY3Q16

✓ Lower customer care and sales expenses

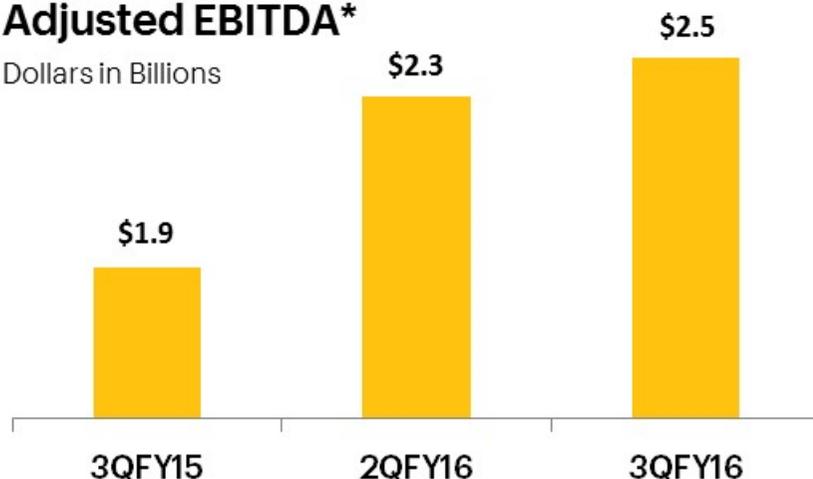
➤ Continue to expect \$2 billion or more of run rate reductions exiting FY2016

Improving Profitability



Adjusted EBITDA*

Dollars in Billions

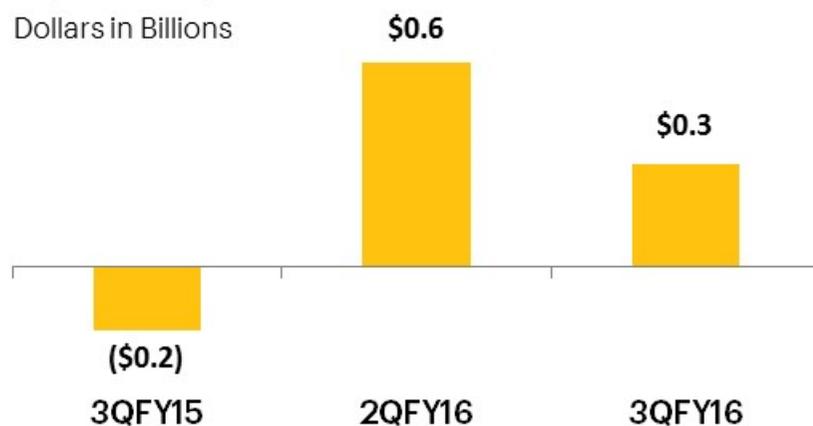


Adjusted EBITDA* improved by over \$500 million y/y primarily driven by expense reductions as well as stabilizing top line revenues

Operating Income also improved by more than \$500 million y/y

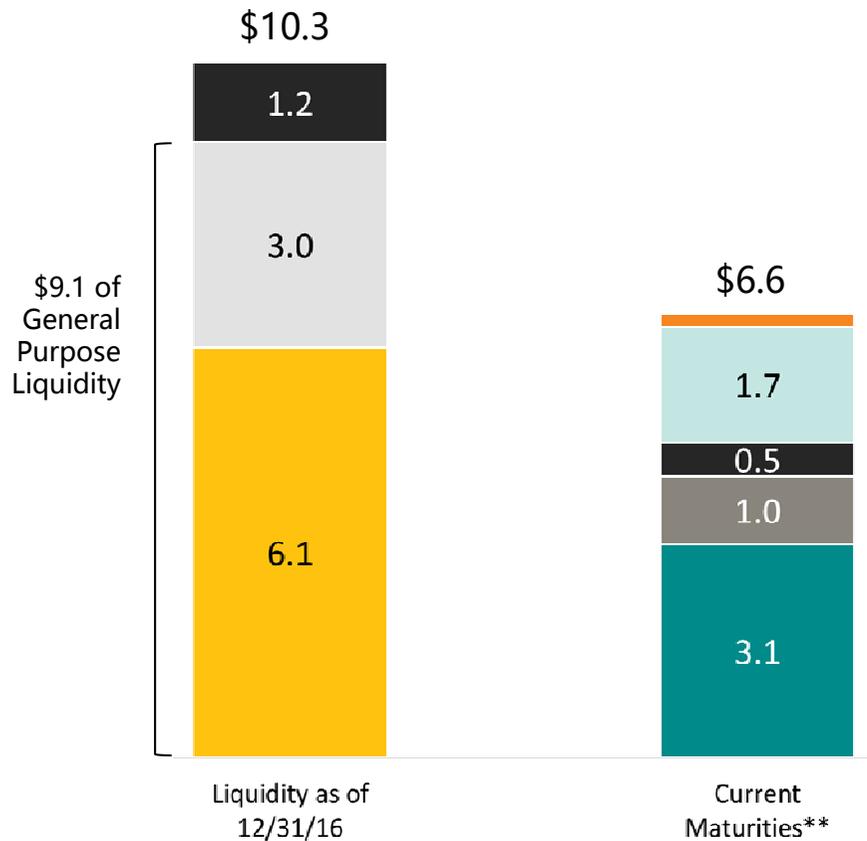
Operating Income (Loss)

Dollars in Billions



(actual dollars)	3QFY16	3QFY15	Change
EPS	(\$0.12)	(\$0.21)	\$0.09
Asset dispositions / severance and exit costs	(\$0.01)	(\$0.05)	\$0.04
Other expense	(\$0.02)		(\$0.02)

Liquidity & Debt



\$9.1 of General Purpose Liquidity

- \$9.1 billion of general purpose liquidity as of 12/31/16 including \$6.1 billion in cash, cash equivalents and short-term investments
- Issued \$3.5 billion of spectrum-backed senior secured notes at 3.36% which is materially less than the coupon on the maturities paid in December
- Terminated the first MLS tranche early
- In the process of refinancing revolving credit facility

■ Cash, Cash Equiv, Short-Term Investments
 ■ Revolver
■ Vendor Financing
 ■ Note Maturities
 ■ Receivables/Device Financing
■ Network Equipment Financing
 ■ Other

**Includes maturities due through Dec 2017

Fiscal Year 2016 Guidance

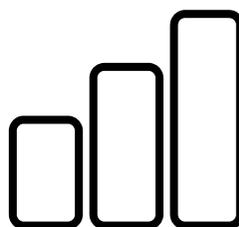


Adjusted
EBITDA*



**\$9.7 billion
to \$10 billion**

Operating
Income



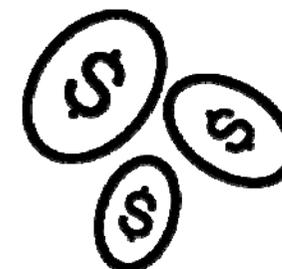
**\$1.4 billion to
\$1.7 billion**

Cash
Capex



**\$2 billion to
\$2.3 billion,**
excluding devices
leased through
indirect channels

Adjusted
Free Cash
Flow*



around
break even

